

## 第二回講義へのコメント

今回の授業は、レポートの書き方を前回の課題の振り返りをふまえて、より詳しく解説を受けた。例えば、「思った」「考えた」「感じた」を使わない。これらを使うことで、自分の意見に対しての責任を放棄できるが、好き嫌いといった「感情」を述べているに過ぎないということ。そして、「~だと感じた、考えた」という言い回しは、動機の説明にはなる一方で、ものごとの根拠にはなり得ない。しかし、「~だ!」と、無責任に断言するだけでもいけない。断言には、理由・根拠が必要であるという。

次に、「小論文」と「論文」の違いについて、最後に「コピペ」にならないために必要な作業について解説を受けた。

私は、今回「小論文」と「論文」の違いとは、「派生して考えたことについて述べて」。

朝のニュースなどには、芸人などが、補助キャスターとして出演していることが多いが、あの人たちは本当に必要ある存在なのだろうか、ということである。ニュースは、より根拠のある意見が求められるべきである。なぜなら、多くの人を一度に扇動する力があるからだ。しかし、あの人たちは、「こんな痛ましい事故があって、悲しいです」など彼らの感情を述べている。短絡的、抽象的であるという点で小論文に近い。よって、一般論をのべるだけの芸人、視聴者の意見をツイッターを通して募集するなどの行為も、「ニュース」には不要である。

今回の授業では、調べた情報の活用方法として「引用」について学んだ。授業でも取り上げられていたが、日本の義務教育では、主に「自分の思ったこと」を書き記すことが重視される。そのため、「客観的に根拠のある意見を述べる」ことを求められたことのないまま、大学生になったり、社会に出る人が多い。ここにこそ、近年のいじめ問題の解決の糸口がある。例えば、生徒間で何らかのトラブルが起きたとする。その際の指導として、それぞれの思いをぶつけさせても、何の和解もできない。そこで、理由のある意見を言い合うようにさせると、互いや自分の欠陥がわかり、納得した上での解決になるのである。したがって、論文などの指導方法は、早い段階から学校教育に取り入れるべきである。

今回の講義では今まで自分が思っていたレポートの書き方が全く違っていただけに気づ

**コメント [y1]:** 日本語の文章で“”は使いません。「」を使いましょう。

**コメント [y2]:** 「派生」という曖昧な言い方でなく、具体的に以下のように考えた理由を説明してください。

**コメント [y3]:** なぜ「述べて」のか、理由を説明してください。

**コメント [y4]:** 「不要」であることと、「あってはならない」ことは別です。「不要」なものは、「あってもかまわない」からです。

きました。自分がレポートと言って思い浮かべていたものは調べ学習や小論文のようなものでレポートとは程遠いものでした。これからレポートを書くときは、講義で習ったように根拠を調べ、またコピペではなく引用をすることができるように心がけていきたいです。

これまでのことでしていたのは引用ではなくコピペであったこともわかりました。これからしっかりと出典を明記し、引用箇所を明示し、引用は少しだけにするように心がけま

コメント [y5]: 「決意表明」でなく、講義内容について考えたことを書くようにしてみましょう。

コピペと引用の違いとは、コピペは引用であることを示さないということに対して、引用は出所表示、明瞭区分性、主従関係の三条件を満たすということである。また、出所表示にはページや出版物のタイトル、制作者や著者、インターネットであれば閲覧日時などを明らかにする必要がある。

私は今回の講義を受けるまで、主従関係が引用するにあたって必要な条件であるということを知らなかったが、講義を受け、私も同様に考える。なぜなら、主従関係の崩れた文章は適切に本人の意見を主張しているとは言えないからだ。そもそも引用とは、「自分の意見を根拠づけるための手段」(山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』山崎裕之新曜社、2013、p.3)であり、主張の説得力を高めるものにすぎない。引用において主従関係の成立は極めて重要な条件である。

今回の講義では、レポートや論文における、調べた情報の正しい使い方を学んだ。

大学のレポートや論文では、高校の調べ学習とは異なり、賛否両論ある事柄について自分なりに答えを決める。いくつもの情報源を見ることで、論じるべきことを発見し、問題を解決するという目的で書く必要がある。その際、引用であることを示さない「コピペ」ではなく、きちんとした「引用」の形をとらなければならない。正しい引用とは、出典を明記すること、引用箇所をかぎかっこでくくり明示すること、情報を並べただけにならないように、自分の問題意識を解決を目的として利用することで成り立つ。ウェブページの場合、情報が変化する可能性があるため、閲覧日時も併記するべきである。

正しい「引用」に至るまでには、複数の情報源を確認したり、賛否両方の意見に目を通したりして、問題を発見し、それを解決するという明確な目的をもつことが重要だと分かった。特に私たちの世代はインターネットが身近にあり、何をする場合にもインターネットに頼りがちだが、自分の意見をより正しいものにし説得力を持たせるためには、他の情報源、例えば本や論文を利用するべきである。

コメント [y6]: ネットは使ってもかまいません。さまざまな情報源を「きっかけ」にするのはたいへん結構です。ただし、それを「引用」してもよいかどうかはまた別の話です。

引用するときには、出所表示、明瞭区分性、主従関係を明確にしなければならない。また、コピペとはその逆である。なぜ大部分が「引用」になってしまうのかというと、情報源を一つしか見ていないからである。あえて反対意見を探し、「論じるべき点」を発見するとよい。自分の興味関心で書かないようにしたり、その「問題」を解決するという目的で書くようにしたりすることに注意し、さらに、社会的・学問的に論じるべき点を挙げるべきである。

今日の授業では、授業コメントに関することと、コピペといわれない引用の仕方を学んだ。そして、引用する際は情報源を一つしか見ないことにより、引用が大部分をしめてしまうことがわかった。そのことから、引用するときはより多数の情報を参照すべきではないだろうか。なぜなら多くの情報を参照することにより、一つの意見に固執することなく、**さまざまな視点から物事を見る**ことができるからだ。そのため、引用する際多くの意見の違った情報を集めるべきである。

**コメント [y7]:** そのうえで、「学問的に価値のある問い」をつかむ必要があります。

調べ学習や小論文といった中学高校で行ってきた正解が決まった事について調べたり、調べてきたことを報告したりするのではなく、賛否両論のある話題についての根拠を探し意見(ここでいう意見というのは「正しいものとして主張するもの」である)を述べるというのが論文である。文章をインターネットや本から引用するときは出所表示をしなければいけなかったり、自分の意見を言うてはいけなかったりと注意する点も多い。物事を多面的に見るために賛成反対の両方の意見を探したり比較検討をしたりしなければいけない。

今回の講義では、論文やレポートの書き方とコピペと引用の違いについて学びました。コピペと引用の違いについてはよくわかりましたが、論文やレポートの書き方についてはまだ自分にとって難しいなと感じました。このコメントをするときも今回の内容で論文のような文を書こうとしたときなかなか書けないのが**今の現状**です。次の授業までに本をしっかり読んでおきたいと思います。

**コメント [y8]:** 現状はおそらくほぼ全員がそうです。これから学びの目標や具体的なやり方をしっかり意識して反復練習することが必要です。

論文・レポートとは、自分の意見を「正しいもの」として主張するものである。根拠のない思いつきや単なる感想を述べただけでは論文やレポートとは言えない。高校までに行ってきた調べ学習と、これから大学で何度も作成していく論文やレポートは大きく異なる。調べ学習は、自分の興味あるものを調べ、それを報告し、またその目的は「正解を探す」ことである。一方、論文やレポートは賛否両論ある話題、かつまだ正解の見つかっていない問題を扱う。そして自分が決めた正解を導き出す。また、大学受験で多くの受験生が書いてきた小論文にも大きな違いがある。小論文は出された題材について調べることなくその場で、自分の体験や抽象・一般的な結論を組み合わせる。しかし論文やレポートは根拠を調べたうえで、自分の意見を「正しいこと」として主張する。

このように高校で自分が書いてきた文章よりも、これから作成していく論文・レポートはさらに論理的な考え方や情報を収集する力が必要になる。また、そのような力を身につけた上で、根拠のある主張をするために正しく理解しておくべきであるのが、引用とコピペの違いである。ウェブや文献からそのまま抜き出して使うことをコピペというが、引用は、出典を明記し、引用箇所を明示した上で文章を抜き出してくることを言う。また、コピペとは異なり、自分の問題意識を解決する目的で引用することから、引用箇所は少しだけにする。引用を正しく利用することで自分の主張が説得力のあるものになるといえる。

しかし、引用を論文・レポート大部分に使ってしまうと、自分の意見を提示していることにはならず、良いものであるとは言えない。そうならないようにするためには、まず、自分の論じようとしているものの反対意見を探し、複数の意見を見ることが重要である。より多くの考えを見ることで、論ずべき問いへ繋がる。自分が決めた正解を出すことは大切だが、まずは様々な意見を取り入れ、自分の考えを見直すことも必要である。

授業の内容がよくまとまっています。

今回の授業ではコピペと引用の違いについて理解しました。コピペとは引用であることを示していないもので、引用とは出典を明記し、引用箇所を「」でくくり、自分の書いた文章に対して引用箇所が大半を占めていないものことです。引用はあくまでも自分の問題意識を解決するために利用するものです。文章の大半が引用になってしまう要因は情報源を1つしか見ないからで、「論じるべきこと」を発見しその「問題」を解決するという目的で書くことが大切です。さらに論文・レポートとは何か、調べ学習とはなにが違うのかについて学びました。論文・レポートは根拠のない思いつきや単なる発想ではなく、自分の意見を「正しいもの」として主張するもので、賛否両論のある話題やまだ正解の見つかっていない問題について書くものです。それに対して調べ学習とは調べてきたことを報告するだけ、「正解」を探してくるだけのものです。以上のことを把握したうえで大切なこと

は反復練習をすることです。不安に思っ手を出さないのではなく、まずやろうとすることが大事です。何度も何度もそうやって繰り返すうちに身についていくはずで。これは論文やレポートだけでなく、何事にも応用できることです。ためらうのではなくまず挑戦する姿勢を身につけることが大切です。

今回の講義では「コピペと引用の違い」について学んだ。単なるコピペを引用に変えるためには、1 出典を明記する。(出所表示)、2 引用箇所をカギカッコでくくって明示する。(明瞭区分性)、3 引用箇所は少しだけで、自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用する。(主従関係)が必要だと理解した。

今回、教授は講義の中で「論じるべきこと」についてお話された。その中で教授は論じるべきことの定義を「学問的・社会的に問題になっていること」とされた。では、学問的・社会的に問題になっていないことは論じるべきではないのか?そんなことはないはずだ。今現在問題になっていなくても、将来問題になることがあるからだ。例として日本の少子高齢化問題が挙げられる。総務省によると日本の少子化問題は出生率が減少した1975年前後から始まったとされている。すなわちそれ以前は問題になっていなかったということである。このような理由から「論じるべきこと」は「学問的・社会的に問題になっていること」である必要はないはずだ。現在問題になっていなくても将来的な問題となりえる可能性が存在するので、そのために自らの知識を前もって体系化させておくことは大切だ。

#### 参考文献・ウェブサイト一覧

- ・山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』新曜書 2017 p.54
- ・総務省『少子高齢化への対応』

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/policyreports/japanese/papers/h12/html/C1000010.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/policyreports/japanese/papers/h12/html/C1000010.html)

論文・レポートとは、まだ正解の見つかっていない問題をきちんとした根拠をもとに、自分の意見を「正しいもの」として主張するものだ。そこに自分が調べた情報を引用するには、出典明記(出所表示)、引用箇所をカギカッコでくくって明示(明瞭区分性)、引用箇所は少しだけ、自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用する(主従関係)、という必要条件がある。大部分が引用にならないためには、「論じるべきこと」を発見し、自分の興味関心で書かずに、その問題を解決するという目的で書くとよい。論文・レポートをうまく書けるようになるために大切なことは反復練習である。

**コメント [y9]:** 「問題にするべきこと」といいかえてもかまいません。要は、自分の個人的な興味関心ではなく、「誰しもが考えなければならないこと」を論じるようにしましょう、ということです。

**コメント [y10]:** だから、その当時はほとんどだれも論じなかったということです。「将来問題になるだろうこと」を、現時点でどうやって把握することができるでしょうか?その方法を説明するようにしてください。

**コメント [y11]:** 引用の仕方について、『コピペと言われないレポート』35 ページを見てください。

今回の授業はコピペと引用の違いの具体的な解説、また正しく引用するために必要なことが説明された。説明は大変わかりやすく、レポートの書き方の初歩ではあるが重要なことは十分に理解することができた。

コメント [y12]: 具体的にどのようなことを理解したのか、説明してください。

まだ正解の見つからない問題に対して自分の意見を「正しいもの」として主張する論文・レポートに引用を用いるときは、情報源を一つに絞らず、自分の問題意識を解決するという目的で利用し、論文・レポートの大部分が引用にならないようにする。その力をつけるためには、何度も反復練習し、良いものを良いと分かる力をつけるべきであるということが今回の講義の要点だ。

反復練習は、物事に慣れ、要領をつかむために重要なことだ。それはスポーツでも音楽でも勉強でも何にでも言えることである。本当にこれでいいのかという気持ちが最初はあるかもしれないが、繰り返しやることで何が良くて何が悪いかは分かるようになる。そうした見る目を養うために、反復練習は必要なことだ。

今回の授業では、論文やレポートを書く際の効果的な引用の仕方について学んだ。

まず授業の始めに先生から、前回出した授業コメントの指導があった。それを踏まえてもう一度、自分のコメントを見返してみた。「思う」「考える」が多く使われていて、書いたときはしっかりと理由も書いたつもりだったが、読み返してみると自分の頭で考えていたことしか書かれていなかった。つまり、客観的な根拠や理由がなかったということだ。また、先生のおっしゃっていた「知識の体系」を「知識の活用」と同じように考えていたために、授業内容からずれたコメントになっていた。これは授業スライドの復習をきっちり行わなかったからだ。1度見ただけの復習は復習ではないし、理解のしきれていない部分を自分の頭で考えていたから起こった理解のずれである。

コメント [y13]: 読み返すことは大変重要です。これからもしっかり読み直すようにしましょう。

授業で「引用」を使うことにより自分の意見が説得力を持つということがわかった。自分の意見を別の人の同じような主張を使うことで自分の意見を裏付けることができ、読み手を納得させる力が増すからだ。自分の意見とは反対の意見を探して読むことは私も賛成だ。

高校生のとき1度だけ、「小学生が携帯電話やスマートフォンを持つことについて賛成か、反対か」という議題で、「あえて自分とは反対の意見でディスカッションをする」、という授業を行ったことがある。私はその議題については賛成意見を持っていたので、反対意見

コメント [y14]: それは良い授業ですね。

の側でいろいろと意見を考えていた。同意見のメンバーと意見を出し合っているうちに「反対意見を持っている人はこういう意見を持っているのか」と気づいたことがたくさんあった。また、反対意見を持つクラスメイトの賛成意見を聞くと、私が持っている意見とは別の考えが上がった。そういう考えもあるな、と新鮮な気持ちになった。「あえて逆の意見の立場に立って考えてみる」という経験をしているだけに 1 つの情報源に頼るだけでは大部分が引用になる、と聞いたときは納得した。そして同じ意見でも別の本を読むことでも自分とはまた別の視点を知ることができ、意見の質が上がるだろう。

今回の講義では、小論文と論文・レポートの違い、また、論文・レポートを書く上で必須である「引用」と「コピペ」の違いを改めて知った。そして、引用の仕方や出典の表示の仕方についても細かく学ぶことができた。しかし、その中で疑問に感じた点の一つある。それは、なぜ論文の大部分が引用になってしまうのかという問いに対して、「情報源を一つしか見ないから」という解答があったことだ。ウェブや本など様々な文献から調べて多くの情報を得るほど、自分の主張の根拠を述べるための引用も多くなってしまっているのではないかと。自分の主張と引用は主従関係であることから大部分が引用である論文やレポートは正しく構成されているとは言えないが、多くの情報を得ることで判断材料が豊富になり、その上で自分の主張を述べるための根拠を示す引用は必然的に多くなってしまっているのではないかと考える。これから実際に論文やレポートを書く際には、自分の主張と引用は主従関係であるということを意識し、また、正しく引用をしたものが書けるように注意して取り組みたい。

今回は、コピペと引用の違いについて講義を受けた。

今の時代 SNS が主流となってきている世の名で警戒心を持たず発言してしまい問題になっていることが多々見受けられる。それは、自分の立場からしか情報をとらえずまた、自分の納得のいく回答しか受け入れていないからである。確かに、一番に目にした情報は印象に強く残りまたそれが基準となりがちである。しかし、その文章を読んだ人に納得してもらうためには複数の情報を追及していくことがたいせえ大切なのではないだろうか。

また、レポートにおける参考文献でもより確かな情報である出版年が最近のものである鮮度の高い情報に優先度を置きたい。そのより情報を利用し自分の意見の確かな根拠づけへと活用していきたい。

自分の意見を前提に置きつつ、一つの情報源をうのみにするのではなく複数の情報に懐疑的な視線を持ち見比べ情報に対して適切な取捨選択を行っていききたい。改めて、一面的

**コメント [y15]:** 矛盾する情報があったときに、単に「情報を蓄積していく」ことはできません。「どちらが正しいんだ？」という問いが芽生えるはずです。多様な情報を得ることで、「問うべき問い」をつかむことが大切です。

**コメント [y16]:** 新しい方がよいとは限りません。まずは概説書を読んで、その分野における「定評のある文献」や「古典」がどのような文献かを知り、まずはそれらを読むのがよい。



な観点を持つのではなく多面的な視線の大切さを**実感した**。

**コメント [y17]:** 実感した理由を書いてください。

今回の授業で、説得力を身につけるためには、自分が納得するまで調べ、反復練習が必要であることを再度理解した。また、文献を引用する場合は、出所表示、明瞭区分性、主従関係を示さなければ、コピペになってしまうことを学んだ。引用する際は、いくつかの文献を読み、比較し、矛盾点を探る。すると、そこから問いが生まれる。この問いこそが、個人の興味関心ではなく、学問的興味関心につながり、論文になることが分かった。

論文やレポートはまだ正解が見つかっていない問題について述べるものだ。正解は、「正しい解答、解釈。」解釈は「文章や物事の意味を、受け手の側から理解すること。」理解は、「訳を知ること。」という意味である。(インターネット辞書検索より)これらの言葉の意味からも、正しい主張をするには、根拠となる理由を知る必要があるとわかる。論文やレポートを書くには根拠が必要なのだ。

今回の授業では、前回の授業のコメントのパターンや直さなければならぬ点を挙げた説明を受けた。「思う」「感じる」などの言葉を使わず、理由を書くようにする。疑問文には、きちんと自分の答えを書くようにする。杞憂をせず、まずはしっかり調べ、しっかり知識を身につけることが大切だ。よくわからなかった場合は、具体的にどのように理解し、どこがどうして理解できなかったのかを説明する。「思い」はしらべ、知り、考える「動機」になるが、考えの「正しきの根拠」にはならない。

論文・レポートとは、自分の意見を「正しいもの」として主張する。このとき、根拠のない思いつきや単なる感想を書いてはいけない。調べ学習は調べたことを報告し、「正解」を見つけるだけだが、論文やレポートは賛否両論のある話題やまだ正解の見つからない問題について書く。自分が決めた正解を書く。小論文は何も調べずにその場で書き、「体験談+抽象的・一般的な結論」というパターンが決まっている。一方、論文やレポートは根拠を調べた上で書き、「正しいこと」として意見を主張する。

コピペは引用であることを示さないが、引用は出典を明記し、引用箇所をカギカッコでくくって明示し、引用箇所は少しだけにする。自分の問題が主で、引用が従であるという、主従関係にある。出所表示で気をつけることは、読者が出典を速やかに確認できるようにすることである。大部分が「引用」になってしまうのは情報源を一つしか見ていないからだ。あえて、反対意見を探し、論じるべきことを発見する。

大切なことは、反復練習であり、「何でも上手いくちよっとした一言」なんてない。杞憂するのではなく、まずはやって見るところから始める。



私は今まで、文章を書く時に杞憂をして、自分に都合のいいようにかいて書いてきた。レポートを書く時のようにきちんと調べて書いたことが全くなかった。今回の授業で学んだようにこれからは杞憂をせず、情報源をひとつに絞ったりするようなことはしない。自分で出した正解が間違っているということは絶対にないのか。練習を重ねていくと、意見を上手く書くことができるのかが不安だ。

コメント [y18]: どういう意味ですか？

コメント [y19]: これが「杞憂」です。まずは練習。

今回の授業は引用とコピペとの違いについて学んだ。まずコピペと引用で決定的に違うところは、論文を書く際に参照するウェブページや文献の取り扱い方だ。参考にした資料をそのまま丸写しにし、どこから引用したのかを明記しないものがコピペである。この「コピペ」を正しい「引用」にするためには、まず出典を明記することが必要だ。次にどこが引用された部分なのかをはっきりさせるために引用箇所を「」(カギかっこ)でくくって明示する。そして引用箇所は最小限にとどめる。これは自分の考えが「主」であり、引用したものはあくまで自分の意見を支えるものに過ぎないという、自分と引用の主従関係を明確にするためだ。ただし引用を少なめにすることは簡単なことではない。論文の大部分が「引用」になってしまいがちなのは、情報源を一つしか見ないからだという。論文を書くからには、一面的に物事を見るのではなく、様々な情報を得て、時にはあえて反対意見を探してみたりしていろいろな角度から問題を見るべきである。ただ、論文を書く際により多くの文献を読み、情報を得るべきだということだったが、自分の意見だと思っていることと同じことが参照する文献の中に書かれてしまっていることがあるのではないだろうか。その場合、たとえ自分の意見だったとしても、コピペのようなものが出来上がってしまう可能性がある。この辺のことをもう少し詳しく聞きたい。

コメント [y20]: これも「杞憂」の一つです。自分の意見と同じ意見があれば、自分の意見の根拠として利用すればよいです。

レポートを書くにあたって決意表明や感想を述べるのではなく、客観的な理由を書かなければならない。自分の疑問点や意見を書く場合、自分がどのように理解したのか、どうして疑問に思ったかなどを具体的に説明し、答えを提示することが必要である。この答えを導くためには、しっかり調べ、知識をつけることが大切になるのだが、ただ調べたことをそのまま利用するのではなく、自身の問題意識が主になるように情報を引用する。ここで注意すべき点は、レポートの大半が引用にならないようにすることである。これを防ぐためには、賛否両論ある社会的にも学問的にも論じるべき点に焦点を当て、信頼性の高い情報を偏りなく調べる必要がある。また、自身の問題意識を軸として書くのであり、自身の興味関心ではない。確かに自分の思いが問題意識のきっかけにはなるが、それは正しさの根拠にはならないからだ。レポートを書く際には上記のこと全て必要であり、特に自分

の主張にどれだけ説得力を持たせ、論じるかが重要である。

昔で以前、早稲田大学で小保方晴子の論文偽造事件で大騒ぎとなりました。その時は日本に来たばかりの頃で、このことを聞いてショックを受けました。まさかただ論文で人生を滅ぼすのは全然想像出来なかったです。このきっかけで、自分が書いた物の信憑性を凄く大事にし始めました。人生だけではなく、自分の信用度を失わいたくないです。

**コメント [y21]:** そのために、今日学んだことを理解し、コピペと言われないレポートや論文が書けるように練習しましょう。

コピペと引用の違いについて学ぶことができた。コピペと言われないためには情報源の製作者、出典、閲覧日などを記載する必要がある。また、1つの情報だけでなく複数の情報を確認することが必要である。しかし、すべての文を引用するとそれはコピペになってしまうので論じるべきことを明確にして、賛否両論が対立している点は、あえて逆の意見を言うことも大切だ。

**コメント [y22]:** 逆の意見を「探してみるべき」と言いました。

今回の総合科学入門講座ではレポートの書き方、注意すべき点について習った。私たちがよく使用する「感じる」「思う」「考える」「印象を持つ」といった言葉は、根拠や理由を説明せずにごまかす言葉だぞきでないということを学んだ。私は高校の時の小論文で「思う」という言葉は使わないように言われたため、それから「考える」という言葉を様々な場面で使ってきた。この講義を受けて自分が理由説明を行っていないことを知ることができた。また、コピペと引用のちがいについても学んだ。違いは単純で引用した出典の名前や引用した部分に「」をつけるなどといったものだった。これからたくさんの本を読み、引用する機会があるがこれらの点に気を付けなければならない。また、ほかにも気を付ける点については、情報源を1つだけしか見ていなければ大部分が引用になってしまうということだ。そのため、この講義で論理的思考力や多面的理解を身につけ、物事を視野広く見る必要がある。

**コメント [y23]:** 3つあります。「など」もごまかしの言葉です。「引用の3つの作法」をきちんと頭に入れて、それができるように反復練習してください。

1 コピペと言われない書き方をするにはまず情報源は引用と出典を明記し 引用箇所をかぎかっこで明示し 引用箇所は 少なくする また複数の情報源を確認し 反対意見なども常に探す また 思う 考える 感じる 印象を持った などのワードは使わない

## 2 コピペと引用の違いが意外と曖昧

### 3 引用箇所は少しだけ書いてあるが具体的に何割と決めてあるわけではなく人の感覚に寄るから

今日の講義の内容は、論文・レポートの書き方の基礎についてだった。まず、論文・レポートとは学問的な問いに対して、調べることで根拠となる知識を知り、自分なりの正しい主張を文章にしたものである。正解となる知識を探し、報告するだけの調べ学習とは異なり、まだ正解の見つかっていない、議論の余地がある話題に対し、自分なりの正しい答えを形成しなければいけない。また、字面の似ている小論文はその場で何も調べず、自分の体験談などを元に、抽象的な根拠を用いて、一般論を導き出すものであり、調べることにより根拠を獲得し、それに則った正しい答えを導き出す論文・レポートとは異なる。上記の二者は情報の利用の仕方が違うという点で論文・レポートと差がある。

次に、論文・レポートを書く上で使用する引用とコピペについての解説があった。コピペがただ単に情報をどこからか抜き取っただけのものならばであり、引用は情報源、文章の内のどの部分がそれに当たるかを明記し、あくまで自分の論じる問題意識を検討するときの根拠として利用する物である。や、(他人の書いた文章を)そのまま自分の主張にしてはいけない。また引用出典を載せる理由は、読者が主張を確認する際、速やかに出典を確認するためである。もし論文を書く際に、引用の部分が大きくなりすぎるのはならば、情報源が一つだけだからである少なすぎる場合がある。あえて相反する情報を手に入れ、矛盾する点などから、論ずるべきことを発見しなくてはならないとよい。

学問的・社会的に意味のある論文・レポートを書く上で大切なことは「何でも上手い言葉」は無いということである。まずは調べ、知り、書き、書き直すことを繰り返すことで、正しく主張する能力を養うしかない。

今日の講義では例として「ハイブリッド車の問題」が示された。自動車の排気ガスが環境問題として取り上げられることがある。その対策として、ハイブリッドカーや電気自動車がアピールされるが、それ以外に排気を抑える方法はないのだろうか。

日本自動車工業会の『2017年度 乗用車市場動向調査』によると、20代以下の若年層の5割超が車を買いたくない意向を示した。買いたくない理由としては、「買わなくても生活できる」、「駐車場代など今まで以上にお金がかかる」などが挙げられた。また、「レンタカー」、「カーシェア」の認知状況はそれぞれ、6割と3割であり、「レンタカー」の利用経験は4割強に上る(日本自動車工業会による)。

この若年層の傾向が、将来も変わらぬまま、車を所有することに消極的ならば、自然と使用される車の数は減少する。更に、少子化の進む日本では車を使用する人口も減少していく。少なくとも、日本の環境問題において自動車排気ガスに焦点を当てる時、この調査結果を意識しなければならないだろう。

コメント [y24]: 曖昧ではありません。3つの基準を満たしていない場合、「著作権法違反」として損害賠償など法的責任を問われる可能性があります。

コメント [y25]: 意識すると、どういう結論が得られるのですか？

## 参考文献・ウェブページ一覧

1)一般社団法人日本自動車工業会「2017年度 乗用車市場動向調査 2018年3月」,  
[http://www.jama.or.jp/lib/invest\\_analysis/pdf/2017PassengerCars.pdf](http://www.jama.or.jp/lib/invest_analysis/pdf/2017PassengerCars.pdf),2018年4月22日  
アクセス

論文・レポートとは、根拠のない思いつきや単なる感想ではなく、自分の意見を「正しいもの」として主張するものである。調べ学習では正解を探してくるが、論文やレポートではまだ正解の見つかっていない問題を取り上げる。

論文やレポートに関わって引用とは、出典を明記し(出所表示)、引用箇所を鉤括弧でくくって明示すること(明瞭区分性)である。また、引用箇所は少しだけにとどめ、自分の問題意識の解決という目的のための手段(主従関係)にすぎない。

情報源を一つしか見ないと大部分が引用になってしまうので、論じるべきことを発見すること、自分の興味や関心で書かないようにすることが重要である。

今回学んだ通り、反復練習はレポートに限らず、何においても大切である。反復練習を続ければそのことに慣れ、効率もよくなり要領がよくなるからである。それに、慣れることによっていつも通りと思え、不安も解消される。このことから、反復練習は大事である。

今回の授業では、前回の授業コメントでの質問などに対する答えや書き方の問題点、そして論文・レポートとは何か、どのように書くのかを具体的に学んだ。自分の中では、論文・レポートと小論文の違いをはっきり説明できるほど理解してはいなかったから、今回の授業できっちり区別ができるようになった。小論文は与えられたテーマについて自分の考えをその場で書くのに対して、論文・レポートはテーマについて事前にたくさんの情報を集め、その情報を理解した上で自分の考えを書いていく。さらに、自分の考えを読んでいる人に納得させるような文章でなくてはならない。だから、小論文などと違って情報収集、文章の流れを考えるなど、事前にいろんな準備が必要である。

また、今回は論文・レポートの書き方の中で、コピーと引用について多く学んだ。内容のほとんどが引用にならないために、複数の情報源を見ることがポイントだと学んだ。特に、自分の持つ意見と反対の意見も探してみるといいと学んだ。論文・レポートを書く上で読んでいる人を納得させる1番の方法は、反対意見より自分の意見の方が良いということを理解させることだ。その為にも、反対意見を探し、それを上回る自分の意見を書くことが大切である。

コメント [y26]: 学んだことを具体的に説明してください。

論文やレポートとは、自分の意見を正しいこととして主張するものである。また、自分の意見には、理由や根拠を示さなければならない。思いや考えは、動機にはなるが正しさの根拠にはならない。また、調べ学習は、ただ調べてきたことを報告するだけだが、論文やレポートとは、賛否両論あり、まだ正解のないものについて、自分が決めた正解を描くものである。そして、その場で何も調べないで書く小論文とは違って、根拠をしっかりと調べて書くものが論文である。論文は、あくまで調べることが大切なのだ。調べたものも、コピペするのではなく、きちんと引用しなければならない。出所表示など、必要な情報を正しく示すことが必要だ。また、引用する際に、一つの情報だけを見るのではなく、複数調べることも重要である。そして、大切なことは、反復練習である。

論文とは「自分の意見を正しいものとして主張する」(1)、とあるように根拠を用いてある問題、疑問に対して自身の意見を主張するものであり、「問題を解決する目的で書く」(2)とあるように知識体系の矛盾点などの問題点を解決するために書かれる。

論文と調べ学習の違いは、論文は「賛否両論のある話題」(3)、「まだ正解の見つかっていない問題」(3)を扱うという知識体系の欠陥を埋めるための主張を行うのに対し、調べ学習は「調べてきたことを報告する」(3)、「正解を探してくる」(3)というように自身の主張、知識体系の欠陥に対する考察が行われておらず既存の情報を複製されたものであるということである。

論文と入試の小論文の違いは論文は調べたうえで主張が行われているのに対し、~~のに対し~~入試の小論文は自身が保有している知識のみで行われる。

コピペと引用の違いはコピペは「引用であることを示さない」(4)のに対し、引用は引用であることを示すためのルールに沿って行われた引用である。具体的には「出所明示、明瞭区分、主従関係」(5)である。

この3つの中で最も苦勞するといえるものは主従関係である。理由は解決すべき問題点を見つけることが困難だからである。知識体系に存在する矛盾に遭遇していないことが原因と考えてよいか。このことに対する解決策は興味を持った分野を信用できる資料で調べる、ということによいか。

引用: (1) 山口祐之 総合科学入門講座パワーポイント 2018年4月20日 9枚目

(2) 山口祐之 総合科学入門講座パワーポイント 2018年4月20日 15枚目

(3) 山口祐之 総合科学入門講座パワーポイント 2018年4月20日 10枚目

(4) 山口祐之 総合科学入門講座パワーポイント 2018年4月20日 12枚目

(5) 山口祐之 総合科学入門講座パワーポイント 2018年4月20日 12枚目

**コメント [y27]:** この文章、長いうえに主語と述語の関係が読み取りにくい。文は短く切りましょう。たとえば、「論文と調べ学習の違いは、論文は賛否両論のある話題について自分の意見を根拠づけて主張するのに対し、調べ学習は調べてきた正解を報告するという点にある。論文は、学問的な知識体系の欠陥を問題提起し、それに解答を与えようとする。それに対し、調べ学習は、単に自分が興味関心のあることについて調べてくるだけである。」など。

**コメント [y28]:** だれが？あなたですか？それなら個人的事情になります。「多くの学生が苦勞すると予測されるのは、主従関係である。」

**コメント [y29]:** 授業で説明したとおり、複数の文献を読むことです。

今回のテーマは引用とコピペの違いだ。

まず、論文・レポートは自分の意見を正しいものとして主張するものである。小論文とは異なり、根拠を調べたことを使って書くため、調べた情報の利用の仕方が問題になる。コピペは引用であることを示さない。それに対して引用は、出典表示、明瞭区分性、引用箇所は少しいることがポイントだ。また引用は学問的な興味関心のために利用するものである。引用するときは複数の情報を探して論じるべきことを発見することが重要だ。情報源が一つだけだと大部分が引用になってしまう。そして、論文・レポートを書く際に大切なのは、反復練習だ。

私は普段から多くの情報を探すことは意識しているが、**信頼性の高い情報を見極める力**が足りていない。時間が限られているときは信頼性の高さを気にせず、端的に解決したいことが書かれているものに頼る傾向がある。これはただ楽なだけで正しい意見を述べることはできない。「ウェブページは調査のきっかけとして利用するのがよい」(山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』新曜社 2013年 p.29)とあるように、信頼性の低い引用はしないことが大切だ。

コメント [y30]: 次回の授業で扱います。

論文・レポートとは、自分の意見を正しいものとして主張することだ。正しい意見は、根拠が明確で、客観性がある。思い付きや、感想ではないため、「思う」や「感じる」、「考える」、「印象を持った」といった表現は用いてはならない。なぜなら、これらの表現は全て理由や根拠なしで誤魔化すことができるからだ。また、調べ学習と違って、調べてきたことを報告し、正解を探してくるのではなく、賛否両論のある話題や、まだ正解が見つからない問題を深く調べ、自分が正解を作り出すものだ。深く調べるという点にあたって必要となるのが引用だ。引用は、出所表示、かぎかっこでくくるという作業をしなければいけない。文の多くの部分が引用になる場合は、情報源を一つしか見ていないからだ。そのときは、あえて反論を探せばよい。そうすることで、情報源が増え、一つの情報をうのみにせずすむ。自分の問題や課題を解決するということが目的で引用することを忘れてはならない。

今回の授業は、前回の授業コメントに対しての返答と、「コピペ」と「引用」の違いについての解説が主な内容だった。

前回の授業コメントからは、次の三つのことが新たに分かった。一つ目は、「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」というような文末になっているコメントについて、このよにのうな文末は自分の意見の理由を示さずにふわふわとごまかしており、レポートには用いてはいけないということだ。「～ではないか」という疑問の形の文末もふさわしくなく、自分の答えを根拠を示したうえで断言しなければレポートにはならない。二つ目は、「知識をたくさん知れば知るほど、判断に迷うことになるのではないか」「断片的な知識を体系化するの難しいのではないか」「『だれもがなっとく納得するかいとう解答』とはどこまでしらべたらよいのか」などの学生たちの疑問は、ただの杞憂に過ぎないということだ。レポートは、自分が納得するまで調べ、しっかり知識を身に着けることから始まるものなのである。三つめは『『思い』も大切なのではないか』という意見があったが、自分の思い、例えば、日常生活の不便を解決したいと思った時に、このような艱難な状況を打破する方法を調べ、知り、考える「動機」にはなるが、自分の考えの「正しさの根拠」にはならないということだ。自分の思いをそのまま自分の意見にしてしまうと、結局「好き」「嫌い」での判断になってしまい、大変危険である。客観的で、かつ論理的な根拠を示さなければならない。

今回の授業で新しく学んだことは、「コピペ」と「引用」の違いについてである。まずは、高校までの「調べ学習」と大学での「論文やレポート」の違いであるが、高校までの「調べ学習」は、すでに解があることで自分の興味関心があるものを調べて報告すればよいのに対し、大学での「論文やレポート」は、賛否両論あり、まだ正解の見つかっていない問題に関する知識をえ、それを体系化して導き出した自分の「正解」を示す。次に、「引用」と「コピペ」の違いであるが、コピペは、引用であることを示さないが、引用は、出所と引用箇所を明記し、引用箇所の量も少しだけである。自分の問題意識を解決するという目的で利用しなければならない。出所表示、名良区分性、主従関係の三つを要するのが引用である。出所表示は引用元がウェブページか本か論文かで示さなければならない内容が異なる。

引用とコピペは何となく同じニュアンスの言葉だと思っていたが、それは勘違いであることに気が付いた。自分の問題意識を一層深いものへとするために、研究の際は、文献をたくさん読み、引用を正しく示して論理的な論文を作らなければならない。

論文やレポートは小論文とは異なる点がある。例えば、小論文は何も調べずその場で自分の経験談や抽象的・一般的な結論を述べるのに対し、論文やレポートでは根拠を調べた上で自分の意見を「正しいこと」として主張する。また、論文やレポートと調べ学習の異なる点は、前者は調べてきたことを報告して「正解」を探して述べるのに対し、後者は賛否両論のある話題やまだ正解の見つかっていない問題に対して自分が決めた「正解」を述

コメント [y31]: 具体的にどこがどうして違うのか、わかりましたか？

コメント [y32]: 具体的にどこがどう違うのか、わかりましたか？



べる。そして、論文やレポートでは「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」といったあいまいな表現や杞憂は避け、しっかりと調べしっかりと知識を身につけた上で理由を述べ、自分の答えを書くべきだ。

また、コピペとは引用であることを示さず文献をそのまま利用するということで、著作権法に触れて値してしまうことである。それに対して、引用とは出所を明記する出所表示、引用箇所をカギかっこでくくって明示する明瞭区分性、引用箇所を少なくして自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用するという主従関係の三点がそろったことである。このようにすれば、著作権法には違反値しない。引用は、自分の正解の根拠として利用するものである。そして、情報源を複数見て反対意見を探すことで社会的・学問的に「論じるべきこと」を発見できるため、論文やレポートの大部分が「引用」となってしまうことはなくなる。

私は、これまで論文やレポートは、小論文同様に自分の経験談などを通して自分の主張を述べる、似たものだと理解していた。しかし、今回の授業を受けて、論文やレポートは小論文とは上記のように異なるものだと理解することができた。前回の授業の小テストで私は「考える」という単語を使用していたため、今後は一切使用せずに精進していく。

今回の授業では、正しいレポートを書くために最初に理解しなければならないさまざまなことを学んだ。まず、コピペと引用の違いについてだ。コピペとは引用であることを示さないものであるが、引用とは出所表示や明瞭区分性、主従関係がきちんと成り立っているものだ。学問的な興味関心からくる自分の問題意識を解決するという目的で引用する。出所表示に示すべき情報も詳しく学んだ。次に今までの学生生活でやってきた調べ学習や小論文と、論文やレポートの違いについて学んだ。調べ学習とは正解が存在する問題について調べ、答えを出すという一方方向的なものであり、まだ正解の見つかっていない問題について、自分が決めた「正解」(説得力のあるもの)を書く論文やレポートとは異なる。また、小論文も何も調べずにその場で思いついたものを書くので、根拠を調べたうえで書く論文やレポートとは違う。最後に、大部分が引用にならないために、あえて反対意見を探してみるとこや、違う人の本を最低2冊読まなければならないことを学んだ。「●●だったらどうしよう」と杞憂するのではなく、まずやる。以上が今回の授業の要点だ。

大学入試の一科目である小論文は必要だ。確かに入試の小論文というのは、何も調べず、その場で思いついたものを書くもので、その癖が大学生になってレポートなどを書く時に悪影響を及ぼすかもしれない。しかし、プラス面も多い。例えば、私は小論文の勉強をすることでさまざまなことに興味(個人的な興味関心)が持てた。それを調べるためにたくさん本を読んだ。試験会場では調べることが出来ないので必死に覚えた。他にも論理的な文章を構成する力が身についたり、自分とは違う考え方をたくさん知り、驚きを覚えたりす

コメント [y33]: 具体的にどんなことに興味を持ちましたか?

るので、入試の小論文は必要だ。

今日の授業では、主にコピーと言われないための書き方について学んだ。引用する際に必要なことは、出典を明記すること、引用箇所をカギ括弧でくくること、引用はレポートや課題の一部分にすることが挙げられる。引用は、あくまでも自分の取り組んでいる問題を解決するための手段として使うものであり、自分の主張に客観的な根拠を示すために用いるべきことが分かった。また、「思う・感じる・考える」等の言葉を用いないようにすることは、レポートや課題を書くうえでこれから最も意識すべきことである。

論文、レポートとは、自分の意見を「正しいもの」として主張する。そのためには、自分の考えに根拠を明確に示して説明できるようにする。根拠は、たくさん本を読んだりして、情報をたくさん持っておく。ここでいう情報とは、情報源が確認できる情報、反対意見、反対の事例である。人それぞれの事例であっても、あくまで自分の主張を論じる。

「大切な事は[〇〇だったらどうしよう]と杞憂するのではなく、まずやる。」と書いていたが、失敗すればどうするのか。「まずやる」ということは、無知のままですということですか?これに対して私は、無知のままに行動するよりもまずは知識を付けてから行うべきだ。

**コメント [y34]:** それが「杞憂」です。また、まず何をやれと言ったかという、調べて知識を付けることです。

今回の授業は、「コピー」と「引用」の違いを理解することが目的であった。

これまでは、インターネットの情報をそのまま使うことを「コピー」で、所々を自分の言葉に変えて使うことが「引用」だと思っていた。けれど、実際は全然違っていった。「引用」とは、出所表示・明瞭区分性・主従関係を示さなければならなかった。

これは、スポーツに例えると、ルールを知らなかったことになる。どんなにすごい能力を持った選手でもルールを知らないと使い物にならない。パッと見てよくかけているように見えても、それが「コピー」だとわかると評価してもらえない。スポーツでルールを破ると退場になるのと同じだ。

最初は、うまくできないだろうけどコツコツ努力してより良いレポートをかけるようにしていきたい。

**コメント [y35]:** 決意表明でなく、授業を受けて考えたことを書くようにしましょう。

今回の授業内容は生徒の意見への返答と調べ学習や小論文と論文やレポートの比較と引用とコピペについてだった。

高校の時に論文を書くことはあったが論文の書き方はあまり教えられなかったので新鮮だった。

しかし、例えば 100 パーセント正しいかはわからないことを考察するとして「正しいこと」として断言したくなかったらどのように書けばよいのですか?「○○○の可能性もある」というような断言 ~~ではないじゃない~~ 語尾も使ってよいのですか?

コメント [y36]: 断言したくなるまで調べてください。

自分の意見を正しいものとして納得させるためにこれからも本を読み、知識を深め、知識を体系化させ、文章を書く練習をする。そうすれば、少しずつではあるが、論理的思考力が身に付き、より相手に納得させるような文章が早く書けるようになるはずだ。だから日々課される課題をやり、相手を納得させる文章が早く書けるようになりたい。

コメント [y37]: 決意表明や希望の表明でなく、授業で学んだこと、それを受けて考えたことを書くようにしてください。

今回の講義で重要なことは、「コピペ」と「引用」の違いを理解することだ。そのためには、調べた結果得た正解を発表するのが調べ学習であり、賛否両論がある問題に対して自分で見つけた正解を「正しいこと」として主張するのがレポートである、と知っていることが前提である。次に「コピペ」は引用であることを示さないのに対し、「引用」は出所明記・明瞭区分性・主従関係といった 3 つのルールを守ったもので、あくまでも自分の問題意識を解決する目的で用いるものである、とより具体的に理解するのも重要である。また今回の講義を通じてなぜレポートの大部分が引用になってしまうのかという疑問も解決した。情報源を 1 つしか見ないことで一方通行な主張になるからであった。そこで、物事の多面的理解力の必要性を感じた。なぜならそのような力があれば単に引用することが無くなるだけでなく、やはり知識体系が大きい方が賛否両論ある問題に対するアプローチがより重層的になると考えられるからだ。したがって前回授業の復習でもあったように、どんなことも杞憂することなく ~~どんどんやっついこうと思った~~。

コメント [y38]: 決意表明でなく、授業を受けて考えたことを書くようにしましょう。

レポート・論文を書くにあたって、「思う」だけに ~~終止終始~~ せず、理由を述べることが重要である。また、疑問を持った際は、自分で考えた答えも書くようにすべきである。

論文の中に別のところから情報を掲載して論を展開していく場合には、コピペではなく引用を用いる。引用は、出所表示・明瞭区分性・主従関係の 3 つの要素が含まれて成立す

るもので、どれか 1 つでも欠けるとコピペになってしまう。論文の大部分が「引用」になってしまう原因は、情報源を 1 つしか見ないということが挙げられる。それを解消するには、賛成意見だけでなく反対意見も探すことが必要である。両意見の矛盾こそが社会的・学問的に論じるべき点であり、「自分の興味関心」で書かず、その矛盾を解決するために書く。また、あらゆる視点からの情報をなんの基礎知識もなく得ることは、混乱してどの情報を信じるべきものなのかわからなくなってしまう可能性があるため、事前に最低限の基礎知識を獲得しておくことが必要である。情報を得る際には、どこの誰が書いたものなのかわからないものは鵜呑みにせず、また、論文やレポートに引用してはいけない。

論理的なレポートが書けるようになるには多少の時間が必要で、反復練習が重要である。杞憂ばかりせずにはまずは書いてみるのが上達への道となる。

今回の授業で、コピペと引用の違いが、コピペは出典を明記しないが、引用は出典を明記し、引用した部分をかぎかっこで囲み、あくまでも自分の主張を軸とする物であるということだと理解することができました。引用にも、ウェブページと本とでは明記すべき情報に違いがあるということが初めて知ることができて、とても興味深かったので、教科書を一通り読んでおくべきだと思いました。

本日は大学生になって書くことが多いレポートに用いる、学術的発想と書き方について学んだ。

調べ学習は存在する「正解」を探して報告するものだが、レポートや論文は賛否両論で、まだ「正解」が見つかっていない物が対象である。調べなしで体験を用いて抽象的に結論を出す調べ学習小論文に対し、根拠を並べ「正しいもの」として自分の「正解」を出すものがレポート、論文であるというのも大きな違いだ。また、引用を示さないものがコピペであり、出典明記、引用部分のカッコ閉じ、なるべく少なめであることを成しているものが引用であることも学んだ。引用に関しては自分が「その『問題』を解決する」という目的を持つことである「主従関係」が必要で、自分の個人的な興味関心で書いてはならない。「論じるべきこと」を発見するために賛成も反対の意見に触れることが必要である。

私たちには今後より高度なメディアリテラシーが求められるだろう。ネット内の情報は手軽に調べられるが虚偽のものも多い。また文献は正確な情報が多いが量も多い。引用する情報にも細心の注意が必要だろう。

論文やレポートとは自分の意見を「正しいもの」として主張することで、他者と対話するための必須の能力である。また、論文やレポートがまだ正解が見つかっていなく、自分で決めた正解を書くのに対し、調べ学習は正解を探してくるという違いがある。さらに、論文やレポートは根拠を調べたうえで書くのに対し、小論文は何も調べないで書くという違いがある。論文やレポートを書くときに欠かせない引用で大事なことは、出所表示、明瞭区分性、引用するのは少しだけにする、の3つであり引用であることを示さないコピーとは大きく異なる。

論文やレポートを書くときに、自分の意見の明確さを示すために引用することは問題ないが、引用しすぎるのは良くない。なぜなら、その引用した著者と考えが似ているから引用したとはいえ、やはり人それぞれ住む環境だったり、自分に影響を及ぼす周りにいる人達が違えば、考えが全く同じということはあるにない。したがって、引用するときは常に多面的な意識を持って、自分の意見もその様々な意見の中の一つであると**考えるべきだ**。

コピーは引用を示さないものであり、引用は出典、引用箇所を明記、自分の問題意識を解決するという目的で使用される。また、出所表示をする際には読者が出典を速やかに確認できるような情報を示す必要がある。引用が論文などの大部分にならないように反対意見を調べるなど、情報源を1つに絞らないようにする。自分の興味関心で書かないように論じるべきことを発見する。

論文・レポートは、自分の意見を「正しいもの」として主張するものだ。まだ正解の見つからない題目に対して、自分が決めた「正解」を論じる。調べた情報を有効活用しながら根拠のある文章を書くことが、説得力のある論文につながる。また、論文・レポートはコピーは出来ないが、引用することが出来る。引用するためには、「出所表示」「明瞭区分性」「主従関係」を守らなくては行けない。引用であることを示さなければ、コピーになってしまう。「出所表示」は読者が出典を速やかに確認できる情報を示す。制作者が分からない情報は信憑性が低いので用いない。ここで、大部分が引用とならないために気をつけなければならない。そこで、自分の意見と反対の意見を含めて複数の情報源から調べる必要がある。大切なことは、繰り返し練習することだ。

この講義で引用とコピーの違いを明確に知ることができた。論文・レポートを書く時には、題目に関連のある複数の情報源から、自分の意見にとらわれることなく調べることが大切である。これから、沢山のレポートを書くことで、引用を有効活用出来る、納得され

**コメント [y39]:** なぜそうすべきなのか、説明してください。  
なお、自分の意見は、「絶対正しい」と確信が持てるまで調べ、学んだうえで主張しましょう。

るレポートを書く力をつけたい。

コメント [y40]: 決意表明でなく、(以下省略)

今回の授業では、レポートや論文を書くときは、自分の思いを書くなら理由や根拠が必要だと分かった。また、正しい引用とは、「出所表示、明瞭区分性、主従関係」を書いているものだという事も分かった。そして、大部分が引用になってしまわないように、あえて反対意見を探すこと、また、賛否両論が対立していることは、問題を解決するために社会的、学問的に論じるべきだと知った。

あえて反対意見を探すことで、どちらが正しいか生まれた問いを、「社会的、学問的に論じる」と言うともとても難しい感じがする。しかし、そのために自分の考え、興味関心を元に多くの本を読むことで、自分が書くべき内容が出来上がってくるであろうと私は考える。

論文・レポートとは、賛否両論ある話題や、正解がまだ見つかっていない問題を扱うものである。論文・レポートを書く時には根拠を調べ、自らの意見を正しいものとして主張する。

この能力は、他者と対話するうえでも必須である。

引用をするときは、出所表示、明瞭区分性、主従関係の3点に気を付けなければならない。出所表示とは、出典を明記することである。これは読者が出典を速やかに確認できるようにするためである。明瞭区分性とは、引用箇所の明示のことである。引用部分は明示のためカギかっこでくる。主従関係とは、自ら書いた部分と引用部分との主従関係のことで、引用部分は少しにとどめるべきである。引用は自らの問題意識を解決するという目的で利用しなくてはならない。

大部分が引用になってしまうことを防ぐためには、情報源を複数参照し、また資料を、反対意見を探しながら読むことで、論じるべきことを発見すればよい。論じるべきこととは、社会的、学問的に論じるべきことであり、自分の興味関心という意味ではない。また、結論においても、何でもうまくいく一言はなく、反復練習あるのみである。

社会的、学問的に論じるべきこととは、前回の講義から、知識の体系がおのずから問うものである。今回、引用の使い過ぎを防ぐ方法として、情報源の複数参照と、批判的視点を持つことが挙げられたが、これらも知識を体系化する取り組みとなる。ある分野についての情報を様々な観点から捉え、知識体系内部の齟齬を探ることになるからである。この点で、知識の体系化は、引用の適切な使用にもつながる。

「論文・レポート」は、数字・記号の使い方を正しく理解し、根拠のある理由を示す。そして、根拠を調べ「正しいこと」として意見を主張する。

引用とコピペの違いにおいては、出典などの情報の明記があるかないかである。コピペにならないこと、大部分が引用にならないようにしなければならない。

私は「情報源を複数閲覧する」ことを重要と指摘する。理由は、「情報源を1つしか見ないでレポートを仕上げることは、大部分が引用になってしまうことにつながる。」(著者-山口裕之『-コピペと言われないレポートの書き方教室』-新曜社、-2017年、-59ページ)。そして、情報源を複数見ることにより自分の知識が深まりより密度の濃いレポートになっていくのである。

情報源の取り扱い方は難しいものであるが、まずは複数の情報を見て物事を多面的に考察し、自分の意見問題意識を確立することが大切である。複数の情報源を見ることは引用部分を程よい配分にするのにも、意見に根拠を持たせるのにも一役買っている。

コメント [y41]: どういう使い方か、具体的に書いてください。

コメント [y42]: どういう意味ですか？  
授業では、「引用は自分の主張の根拠として利用する」と説明しました。

今回の授業ではレポートに関する基礎知識について学んだ。レポートを書く際には、正解のない問題に対して自分の意見を「正しいもの」として主張することが第一であり、頭で考えるのではなく調べるのが大事である。引用する際はコピペとならないように、出所表示を欠かさず、また様々な情報を参照し一つの情報のみに捉われることなく意見すべきである。今回の授業を聞く限り、引用という行為を少し難しく感じてしまった。出所表示、明瞭区分性、主従関係と条件が三つもあるからである。しかし今までの生活を振り返ってみれば、会話の中で説得をもたせようと「お腹が痛いときはお腹を撫でるといい、と親が言ってたよ」というように自然と引用まがいの行為を行っていることに気づいた。この場合、引用したのは、親の発言という、ように多数の人間から信頼を得るには十分でない情報源要素であり、また情報源が一つということも好ましくないが、引用の条件である、出所表示、明瞭区分性、主従関係がすべて揃っているのである。また、自分の中で主張したい意見が定まっていたならば、主張にとって引用という行為がなくてはならない存在であり、パズルのピースを埋めるが如く自然と成り立つものになるはずである。引用しなければ、という義務感をもって引用を行うのではなく、引用という行為が自分の主張の一部となるよう、そして文脈に沿って的確な引用が行えるよう普段から本や情報を注視し得た学びを自分の糧にしていきたい。

コメント [y43]: 決意表明でなく、(以下省略)

今回の講義では、コピペと引用の違いについて学んだ。引用とは、大きく分けて3つの



守らなければならないことがある。1つ目は、出典を表記すること。2つ目は、引用箇所をカギかっこでくくって明示する(明瞭区分性)。3つ目は、引用箇所は少しだけ。それとは逆にコピペとは、その引用を示さないことである。

また、引用において、情報源を1つにするのではなく、色々なことを調べて、引用することが大切である。これらが今回の講義のみそである。

今回コピペと引用の違いについては理解することができたが、いざ書くとなると不安である。その不安を消して行くには、やはり書いていくしかない。また、偉人の論文・レポートを見てマネをして書くことも大事である。なぜならスポーツや勉強においても上手い人のマネをすることで、どう考え、どう動けばいいかを学ぶからだ。

引用とコピペの違いは引用であることを示すか示さないかという点である。引用する際には出典明記、引用箇所にカギかっこの使用が求められる。更に引用は自分の問題意識を解決するという目的で利用すべきであるため引用箇所は少なくする必要がある。そして、自分の問題意識を主とするレポートを書かなければならない。

しかし、大部分が引用になってしまうケースもある。そういった問題が発生する理由は情報源を一つしか見ないからである。まず、反対意見と賛成意見を比較することで意見の対立箇所を明確化することができる。そして、なぜこの箇所で意見の対立が起こっているのだろうという問いがうまれる。その問いを深く掘り下げていくことで発見できるものがある。また既存の議論が他の場合でも当てはまるかを考えることも大切である。こういった過程の中で自分の意見は形成されていく。

これらを正しく、スムーズに行うには反復練習以外の他の道はない。何事にも地道に取り組み実際に行うことに意味がある。なぜならば、実践せずして自分の理解できていない部分は気づかないからである。実践して初めてどの部分がどのように間違っているかを自分自身で身近に考えることが可能になる。そして、次へ次へと活かしていくことで、自身の視野も広がり、知識も身につけていきより良いレポートが書けるのである。

授業の内容がおおむねまとまっています。

授業コメントには、理由を書くようにする。自分で問いかけた疑問文には、きちんと自分の答えを書くようにする。

知恵をつける前から知識をたくさん持つ事や調べることについて杞憂しても仕方がないので、まずはしっかり調べ、しっかり身につけることから始める。

今、私たちが抱えている興味関心は、おそらくすべて個人的なもの間違いないので、自

分の中に学問の知識体系を築いて学問的な興味関心を持てるようになるべき。知識を活用することも大事だがそれと知識の体系化は別の話。

思いは動機にはなるが、考えの正しさの根拠にはなりません。

論文、レポートとは自分の意見を正しいものとして主張するもの。高校までの学習とは違い根拠の思いつきで書いたり、単なる感想ではいけない。調べ学習では正解を探し、調べてきたことを報告するだけで良いが、論文やレポートでは、まだ正解の見つかっていない賛否両論のある話題について自分で考え、自分が考えた正解を書かなくてはならない。小論文は何も調べないでその場で書くが、論文やレポートでは根拠を調べたうえで書き、それが正しいこととして**行けん意見**を主張していく。

コピペと引用の違いは、引用は出典をきちんと明記して引用箇所を鍵かっこでくくって明示しているのに対してコピペは引用であることを示さないところだ。

引用する際には、引用というのがはっきりわかるように明瞭区分性を持たせなくてはならない。引用にて出所表示を示すのは読者が出典を速やかに確認できるようにする意味もある。

論文では情報源が一つしかないと大部分が引用になってしまうことがあるのであえて反対意見を探してみるのも手である。

大切なことは、反復練習。最初から杞憂するのではなく、まずやる。

わたしはこれまで文章を書く時に引用をしたことがなかったが、この授業で引用する際に気を付けなくてはならない点がわかったのでこれから活用していきたい。

箇条書きのような書き方になっています。きちんとした文章の形で書くようにしましょう。箇条書きと文章の違いは、接続詞が入っているかどうかです。

論文・レポートとは自分の意見の根拠を示して「正しいもの」として主張するものである。話題は賛否両論あるものを扱い、自分で決めた正解を書く。論文・レポートに使う情報は出典と引用箇所を明示し、自分の問題意識を解決するために引用する。大部分が引用になってしまわないために、複数の情報を照らし合わせ「論じるべきこと」を発見する。自分の主張を打ち出す際には、現実的で具体的に書く必要がある。

論文を書く前に引用とコピペの違い、扱う話題の選び方を知らなければ良い論文を書くことは不可能だということを知った。

今回の授業ではレポートの書き方について学んだ。レポートを書く際に「思う」「感じる」「考える」などの言葉を使用して具体的な根拠や理由が書けていないようでは自分の主張

が伝わらないということや、引用を効果的に使うためには一つの情報だけでなく反対の意見にも目を向けて調べる必要があるという内容であった。

レポートを作成する練習を重ねることで身に付けられる能力は自分の意見を持つという力である。なぜなら、コピペを行ったり、引用した箇所が大半を占めたりという事態が起こるのは「自分の意見を明確にできていない」ことに原因があるといえるからだ。自分の意見を他者の研究の成果を頼りにして主張するのでは、自分の意見と他者の意見との境界線が曖昧になる。はっきりと自分の意見を持ち、自分の言葉で主張する力を身に付けるという目的意識を持ち、私たちはレポートの作成に挑むべきだ。

**コメント [y44]:** それ以前に、まずは多面的な知識を身につけ、「問うべき問い」をつかむことが大切です。

二回目の講義では、これまで課題を提出してきた学生がやりがちな書き方や、レポートを書く時の注意点などを学んだ。具体的には、「思う」「感じる」「考える」等の主観的な考えを述べただけで、その考えに対する理由を述べていなかったり、カギカッコの正しいつけ方やよくある誤字、変換ミスを紹介したりした。レポートを書く時の注意点に関しては、レポートが「調べ学習」とは異なり、賛否両論のある話題や、まだ正解が見つかっていない問題を多角的な視点でとらえ、資料の引用などをして、自分の最終的な主張を説得力のあるものにしなければならないことや、その為にも出所表示や明瞭区分性、自分の問題意識と引用の主従関係を使った正しい引用の仕方を身につけなければならないことも学んだ。山口先生著の「コピペと言われないレポートの書き方」を十分に読み込む必要がある。

今回の講義では、レポートとは何か?という所から学んでいき、自分が論ずる話題について深く掘り下げるのだが、その話題が内容の薄いものではつまらない。答えが明確に分かってしまうものはただ調べたことを報告するだけの「調べ学習」になってしまう。だから自分が追及追究する話題についてはよく考える必要がある。だが、はじめから内容の深い話題を選んで考えていくのはかなり難しいように思う。なぜなら自分の未知のことについて調べぬいていくのに、その内容が深いか浅いかなんてわからないからだ。前回の講義で、始めに決める話題は興味関心からでも、調べていくうちに話題が変わっていくと学んだ。「調べていくうちに+」である。何事も調べてみないと分からない。ただ、始めからいろいろなことを知っていれば、自分が研究していく深く掘り下げることのできる話題も調べやすいはずだ。そのいろいろなことこそが、前回の講義で学んだ「知識」である。知識を身につける方法は様々であるが、一つの例に本がある。今回の講義でも学んだように本をたくさん読むことで、知識が体系化され、話題も見つけやすくなるし、研究しながら知識を身につけるよりも効率が良くなる。

今回の授業の要点は、小論文と論文・レポートの違いやコピペと引用の違いを認識する事である。小論文は、何も調べずその場で自分の意見を書くが、論文・レポートは根拠を調べた上で書かなければならない。また、コピペは引用である事を示さない物を指し、引用は出所表示、明瞭区分があるもので、引用箇所は少しだけにする。そして、引用は自分の問題意識を解決するという目的で利用する。

レポートを書く際に、複数の資料を読む事が大切だと原発の是非を例に学んだ。原発は複雑な問題でありながら、原発の事を詳しく知らないままに感情で是非を判断する人が多いようだ。私もその一人かもしれないと危機感を持った。実際、感情で意見を述べる事は客観性に欠ける。ワイキューブ取締役副社長の中川智尚氏は「主観と客観のバランスを取らなくてはなりません。あまりに客観的すぎる文章は、説得力がなくなってしまいます。主観的ではあるが感情をうまく抑えて冷静に書かれた文章は、読んでいて面白いし説得力があります」と述べている。(日経 BP 社 「説得力を高めるため要点は必ず3つにする」

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/skillup/20070529/125897/ 2018/4/21> アクセス)。

これからは、レポートを書く際に感情で意見を述べず、複数の資料に触れて、主観と客観のバランスを保ちながら意見を述べたい。

コメント [y45]: なぜこの人の言うことを信用できるのですか？また、「主観と客観のバランスを取る」とは、具体的にどのようなことにしようか？

今回の学術的発想と書き方の講義を通して、論文・レポートを書く際にコピペと言われないために、情報源の正確な引用と出典の明記、引用箇所を「」でくくる明瞭区分性、そして自分の問題意識を主としての主従関係を示す必要がある。また論文・レポートは、調べずにその場で書く小論文と異なり根拠を調べた上で「正しいこと」として意見の主張を行うことであると学んだ。さらにはその調べた情報の利用の仕方が重要である。大部分が引用になってしまう要因原因として、情報源が一つしか無いことが挙げられる。多面的なより多くの情報や知識が求められるという点で前回の講義で学んだことと結びつく点がある。今回の授業を通して学んだことの一つは自分の中の知識量が必須となることだ。しかし、前回の授業で学んだように、多くの知識を持つだけではただの雑学にすぎない。論文やレポートを書く上でもやはり体系化した知識が必要といえる。特に原発や国際問題などの多様な社会問題に対して自分の意見を持つためには役に立つものであり欠かせないものだ。なぜなら18歳以上となり主権者となった今、自分自身の意見を持ち判断を下すまでの過程として、反対意見を参考にしたり他の意見と比較するべきときがある。その判断材料として多くの広範囲な情報・知識が必要不可欠であるからだ。

レポート・論文とは賛否両論のある事柄を話題にし、まだ正解の見つかっていない問題に対して自らが決めた「正解」を述べるものである。その際に、客観的に見て明らかな誤答とされるものは良くない。また、説得力のあるものにするために根拠を調べた上でその情報を提示し初めて「引用」となる。「引用」とは出所表示・明瞭区分性・主従関係が重要である。出所表示とは web ページであれば制作者、ページタイトル、URL、閲覧日時を明記することである。他にも本や論文から引用する際に明記することが異なる。明瞭区分性とは、引用した部分を鉤括弧で括ることである。主従関係とは、自分の問題に対しての意見を主とし、引用部分を従とすることである。また、「引用」を「コピペ」と勘違いされないようにする工夫として、1つの情報源だけでなくいくつかの情報に当たり、あえて反対意見を出すことも大切である。

コメント [y46]: 引用とコピペには目う書くな違いがあるので、「勘違い」はありません。

今回の講義では、論文・レポートとは何かについてと、「コピペ」と「引用」の違いについてを学んだ。まずは論文・レポートについてだ。論文・レポートとは、自分の意見を「正しいもの」として主張するもので、他者との対話に必須の能力である。また調べてきたことを報告したり、「正解」を探してくる調べ学習とは違い、論文やレポートは賛否両論のある話題やまだ正解の見つかっていない問題について自分が決めた「正解」を書かなければならない。小論文と、論文・レポートとの違いは、前者は何も調べずに決意表明型で書くのに対し、後者は根拠を調べて「正しいこと」として意見を主張するという点である。

次に引用とコピペについてである。コピペは引用であることを示さない。一方で引用には3つの条件がある。出典を明記する出所表示、引用箇所をカギカッコでくくる明瞭区分性と引用箇所を少しだけにする主従関係である。出所表示に示すべき内容は場合によって異なり、ウェブページの場合には製作者、ページタイトル、URL、閲覧日時を示し、本や論文の場合には著者、タイトル、出版社名(論文では記載誌名)、出版年、ページを示すことが必要である。

大部分が「引用」になってしまわないようにするためには、複数の情報に触れて社会的・学問的に論じるべき点を発見しなければならない。最後に、論文・レポートに大切なことは反復練習である。「●●だったらどうしよう」と杞憂するのではなくまずやるという姿勢で取り組まなければならない。

## 1. 授業内容

カギカッコの使い方や漢字の変換ミスに気をつける。また、文末に「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」という表現は使わずに理由を書き、「～ではないか」という疑問文

には自分の答えを書くようにする。単に「よく分からなかった」ではなく、「どのように理解したかにもかかわらず、どこがどうして理解できなかったのか」まで説明する。

論文・レポートは、自分の意見を「正しいもの」として主張する。調べ学習とは、調べて正解を探し報告するものだが、論文・レポートは賛否両論のある話題であり、まだ正解は見つかっていない。また、入試の小論文は何も調べないで書くのに対し、論文・レポートは根拠を調べたうえで「正しいこと」を主張する。

「コピペ」は引用であることを示さないが、「引用」では、情報源を引用と出典で明示する。引用を活用した文章の構成で「思う」は禁句であり、接続詞や具体的な結論が必要だ。また、自分の問題意識を解決するという目的で、引用箇所は少しだけにするという主従関係が大切である。大部分が引用になってしまうために、複数の情報源を確認し、あえて反対意見を探してみても、論じるべきことを見つけると良い。

## 2.意見とその根拠

情報源をひとつしか見ないことにより大部分が引用になってしまうことの対策として、あえて反対意見を探してみるということに納得した。Web ページや本を読んでも、取り上げた題材について、制作者は自身が賛成ならメリットを、反対ならデメリットのみを述べていることがよくあるからだ。これから私たちが論文やレポートを書くなかで取り上げていくテーマや題材には、必ずと言っていいほど賛成意見と反対意見が存在する。それにも関わらず、ひとつの情報源しか見ないのでは多面的理解ができない。あえて反対の意見を探してみることで、多面的な考え方をしたうえでの自分の意見を、「正しいこと」として主張ができるのだ。

今回の講義で、学術的発想に基づく説得力のある文章を書く事の有用性と、コピペと引用の違いについて学んだ。説得力のある文章を書く事で、知識が体系化し、適切な評価・価値判断ができる状態である知恵となるのだ。特に印象的だったのは、『『思い』は『動機』になるが『正しさの根拠』とはならない。』ということだ。確かに、自分が好きだからという理由で、戦争を起こしていいわけではないし、核兵器を使っていいわけでもない。正しさには、ある程度の基準があり、個人的な感情でどうこうしていいものではないのだ。しかし、自分の主観的な考えにとらわれず、客観的に根拠を示すことはすぐにできるものではない。経験を積み重ねていくことで、身に付くのだ。自分は、よく、小論文など長めの文章を書くとき、主観的な思いや感情から結論を出してしまうので、このことを踏まえて、説得力のある文章を書きたい。

コメント [y47]: 決意表明でなく、(以下省略)

論文やレポートは根拠を調べたうえで意見を主張する。根拠を調べた情報を引用する際は、出典表示・明瞭区分性・主従関係の 3 つを確実に示す必要がある。また、大部分が引用になってしまわないように、情報を一つしか見るのではなくあえて反対意見を探してみることも必要だ。大切なのは、反復練習である。

私も「レポートを書く上で大切なのは、反復練習である」という意見に賛成だ。私も小学生からソフトテニスをしていて、基礎練習と実践練習の繰り返しによってだんだん実力をつけることができた。練習を繰り返すことによって、自信をつけることができ、本番で発揮することができる。勉強において、予習・復習をするのも反復練習と同じだと言えるのではないだろうか。

論文やレポートを書く上で、根拠を示すのに自分の体験談は入れてはいけないのか？

私は自分の体験談を入れるべきだと考える。なぜなら、体験とは自分が身をもって実証した結果であるからだ。根拠を示すうえで相手を説得させるのに、自分が実際に体験しているとさらに説得力が高まる。

コメント [y48]: だからといって、一般的に正しいとは言えません。自分の体験は、きっかけとして利用するのはかまいませんが、客観的な根拠としては薄弱です。

レポートを書くことは、自分で調べ、身につけた知識を基にして、自分の意見を書くものである。よって、個人的興味や個人の思いを書いても自分の意見を正当化することはできない。さらに、引用するにあたって、情報源は明示し、そのうえで複数の情報源を探し、論じるべきことを探す。最後に、調べ学習との違いにおいて、まだ正解のない問題を扱う点や、賛否両論のある問題を扱う点で違う。

より、レポートを自分の意見を強く主張できるようにするには、より明確に相反する事象に対しての違いを示すことが大切である。そうすることで、聞く人にとってわかりやすく伝えられる。よってデータや資料は大事なのである。

今回の授業では、学術的発想と書き方について学んだ。まず「意見」と「思い」の違いについて、「意見」は客観的な文献などの情報に基づき正しい事として主張するものであり、「思い」は自分の考えの外に出ず主観的に主張しているもので調べ、知り考える動機にはなるが考えの正しさの根拠にはならないものだと教わった。

つぎに論文・レポートとは自分の意見を正しいものとして主張するが、根拠の無い思いつきや単なる感想を述べるものでは無いと教わった。また、論文では賛否両論のある話題や未だ正解の見つかっていない問題について取り上げるのだと学んだ。

最後に論文、本、web を参考にする際に明記しなければならない情報について教わった。その時にただ 1 つの情報源から引用するだけのレポートにするのではなく、その反対意見



も取り上げたいのでレポートとして完成させることが必要だと教わった。

今回の講座では、「コピペ」と「引用」の違いについて学んだ。引用をするときにおいて出所表示、明瞭区分性、主従関係の3つに気をつけなければならない。出所表示をするときには読者が出典をすぐに確認できるようにしなければならない。大部分が「引用」になってしまうために、複数の情報源を調べたり、あえて反対意見を探してみることが重要である。賛否両論が対立しているものは社会的・学問的に論じるべきものである。また、自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用するというのを忘れてはいけない。

今までしてきた調べ学習や小論文とは違い、自分の問題意識を解決するために文献やデータを引用し、自分の意見を「正しいこと」として主張する。自分が論文やレポートを書くとき、根拠のある文章にするためには引用が大切な役割を果たす。根拠のある文章を書けるようになるために、コツコツとひたすら反復練習をすることが大切である。その反復練習の中で正しい引用の仕方を身につけなければならない。

今回の授業では、レポートの書き方について学んだ。大学でのレポートは高校までのただ調べてきたことを報告する調べ学習とは違い、まだ正解の見つかっていない問題について自分の意見を主張するものである。レポートでは「思う」や「感じる」、「印象を持った」などという言葉はやめて、きちんと自分の意見を書き、理由を述べなければならない。また、杞憂をするのではなく、まずはしっかりと調べ知識を身につけることが大切である。そしてレポートを書くにあたっての引用の仕方も学んだ。引用する際は、出典を明記し、引用場所にかぎっこをつけ、少しだけにする必要がある。自分の問題意識を解決するという目的があるからだ。

**大学からいきなり**このような学術的発想とレポートの書き方について学ぶのではなく、中学や高校からもっとこうしたことを学ぶ授業を増やすべきだ。社会に出て自分の意見を明確に伝えるのは大事であるのに、なかなかそれをどのようにするかを教わる機会がなかったからだ。

**コメント [y49]:** 学習は積み重ねです。なんでも「早ければよい」というわけではありません。「考える力」はある程度、知識が付き、人間として成熟してこないと身につけません。

私たちがレポートを書くときついやってしまうミスとして、「考える」「思う」「印象を持った」という言葉を乱用してしまうことがあげられる。これらの言葉は一個人の主観であり、~~その発想を持つに至った思考プロセス~~ 根拠や理由が記されていないため、大変よ

ろしくない。これから先のような語を使用するときは、しっかりとその理由まで記さなくてはならない。

コメント [y50]: 使用してはいけません。

高校以前の調べ学習・小論文と違って、大学で行う論文・レポートは自分の意見を正しいものとして主張するものであり、他者と対話するための必須の能力である。例えば、調べ学習はとあるテーマを調査し、その答えを探し報告するだけであったが、論文は様々な議論がなされている話題について、自分で答えを導き出すことをしなければならない。論文作成時に必須なのは「引用」であるが、似て非なるものとして「コピペ」という言葉も存在する。「引用」は自分の問題意識を解決するという目的で使用され、1引用の明記 2引用箇所をカギかっこでくる 3引用箇所は少なめで、という制約があるが、「コピペ」は引用の明記をせず、他人の創作物を勝手に抜き出し自分のものにする行為である。当然コピペはしてはいけない愚劣な行為であるが、かといって引用も考えたうえで行わなければならない。最悪の引用が「大部分が引用」である。こうならないためには多様な情報源を持ち、問題の本質的解決を目指すことが重要である。

コメント [y51]: 何を考えるのですか？先に書いた3つのルールを守って行ってください。

今回の講義を通して、改めて「コピペはいけない」という認識を持つことができた。講義内での情報の引用の仕方や、引用元媒体の違いによる「出所表示」に示すべき情報の取り扱い方は、今後大いに役に立つだろう。

高校卒業まで練習してきた「小論文」と大学で書くことになる「論文」との線引きを明確に理解することができ、これから自分がどのような姿勢で筆をとるべきかよく理解することができました。

コメント [y52]: 具体的にどのようなことを理解したのか書いてください。

今回学んだように論文では引用した資料や文献について様々なルールが存在しますが、今まで読んできたいわゆる新書や学術書での資料・書物引用のルールと論文でのルールとはまた違いがあるのか知りたいです。

コメント [y53]: なぜ知りたいのか、理由を書いてください。(答えを言えば、ルールは同じです。)

今回の授業は、自分が決めた答えを正しい事として書くことやレポートを書く際に自分の意見と反対のものをあえて探してみることなど、レポートに関する更なる詳しい書き方について学んだ。

コメント [y54]: 具体的にどのようなことを学んだのか書いてください。

今回は先生の言ったことは全て納得出来たので特に意見が何も無い。こういう時この授業レポートで自分の意見というものをどう考えていくべきか分からない。私は、この授業はレポートの書き方講座であって賛否両論ある問題について詳しく言っている訳では無いので、そんな授業で自分の意見を探すというのは無理ではないかと考える。

コメント [y55]: 他人のコメントを読むなどしてみましょう。また、この授業は始まったばかりです。これから、賛否両論のある話題をいくつか取り上げることになるでしょう。

今回の講義では、主に「論文・レポートとは何か」ということに加え、『コピペ』と『引用』の違いを理解することに重きを置いた。論文とは、これまで学んできた「調べ学習」とは根本的に違う性質がある。論文を書く上で要となることは、テーマに成りうる「賛否両論のある話題」、または「まだ正解の見つかっていない問題」、それらに対して「自らが客観的に基づいた、説得力のある『正解』を導き出す」ということだ。客観的に基づいた主張を叩き出すためには、様々な文献を読み、調べ、書くことを繰り返さなければならない。その過程で新たな疑問に立ち塞がれたりして、さらに知識を体系化していく。この部分が、調べてきたことを報告し、正解を探し出すだけの「調べ学習」とは違うのだ。

文献や資料を読み、調べる時に重要となるのが「引用の仕方」である。引用であることを示さないことが「コピペ」と呼ばれ、正しいレポートを書くための第一歩とは、この部分の理解である。「引用」とは、情報源の出典明記をすること(出所表示)、引用箇所をカギカッコでくくって明示すること(明瞭区分性)、自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用する(主従関係)、という三つの点が満たされた時初めて成立する。

授業内で、多くの学生の書いたレポートはなぜ大部分が「引用」になってしまうのか、ということに関して学んだ時、情報源の一つしか見ないから、という答えが提示された完結した。その問題に対して「あえて反対意見を探すこと」ともも言っていたという答えが見つかった。「文系、理系を問わず、すべての学問・科学の基本は『批判』です」(山口裕之『「コピペ」と言われないレポートの書き方教室+』新曜社、2013年、53ページ)。日々膨大な量の社会ニュースがたむろ氾濫している今日、同じ内容の事柄でも、全く異なる視点から見たニュースが我々に伝えられている。ゆえにどのニュース、資料が真実を指しているのかも分からない世の中ができてしまった(たとえ全て真実を、嘘を伝えていたとしても)。「批判精神」を持つことが、人間として与えられた権利であり、レポート等を書く上の「心構え」である。

「思う」だけでなく、「考える」もやめて、理由を書く。論文、レポートとは、客観的根拠のある意見を正しいものとして主張する。また、論文やレポートは、自分の主張が正しいという根拠がないとだめ。そのため根拠を調べたうえで書く。引用は、出所表示、明瞭区分性、主従関係がなければならない。レポートを書く上で大切なことは反復練習だ。

小論文の練習をしていた時に自分の意見と反対の意見を取り入れてその意見を批判することで自分の意見に確証性ができると言われたから、そういう部分では小論文と論文は似ている。

コメント [y56]: なぜそう言えるのか、理由を書いてください。

コメント [y57]: どうして似ているのか、具体的に説明してください。

レポート等において「思う」「感じる」「考える」などで終わらせるのではなく、きちんと自分の答えを書く。まずはしっかり知識を身に着けることが重要。自分が抱いている興味関心はすべて「個人的なもの」と考えてもよいものである。

「出所表示」をする際、ウェブページからの場合製作者、タイトル、URL、閲覧日時を記し、本の場合、著者、タイトル、出版社、年、ページ、論文の場合、著者、タイトル、掲載誌名、出版年、ページを記す。情報源を一つしか見ないから大部分が「引用」になってしまう。だからあえて反対意見を採してみるべきである。

「思い」は調べ、知り、考える動機にはなるが、考えの「正しさの根拠」とはならない。論文やレポートではまだ正解の見つかっていない問題などをとりあげ、自分が決めた「正解」を書くようにする。

コピペとは、引用であることを示さないことであり、引用は出典を明記し、引用箇所を「」でしるし示し、少しにとどめるものである。

簡条書きのような形で書いています。きちんとした文章の形で書きましょう。簡条書きと文章の違いは、接続詞が適切に使われているかどうかです。

今回の講義では、論文やレポートは小論文や調べ学習のようにその場で思ったことを書くことや、その問題の「正解」を探してくるのではなく、賛否が分かれる話題やまだ「正解」の見つかっていない話題に対して客観的な根拠に基づいた自分なりの「正解」を書くものであるということと、引用とコピペの違い、または引用の仕方について学んだ。

しかし、この講義の中で二つ疑問に思った点がある、一つ目は例えばある本の文章を引用するとして、出版年や出版された都市、また Web ページであるなら閲覧日時を書く必要があるのかということだ。なぜなら、この講座の講師である山口講師によれば、引用する際に、最低その文章を書いた著者、引用する文章のタイトルやその文章のあるページ数を書けばよいとおっしゃったためである。このことについては引用できる文献がなく、読み手に対しての親切な補足情報や実際に書き手が調べたという証拠であるのではないのかという推測の域をでなかった。

次に二つ目の疑問だが、前回の講座でも言っていたが Wikipedia の情報がどの程度不確かであるのか ということだ。その答えは Wikipedia の特徴にある。「Wikipedia の特徴は、だれでもいつでも匿名で記事の作成・編集ができる、という点」1 である為、「専門家の校閲がないために誤りが見過ごされる可能性があること、そして、故意の情報操作を受ける可能性がある」2 ことより本や論文に比べ高い割合で間違っている可能性がある。もちろん、正しく有用な情報もある。今回の講義では二つの疑問を含め たくさんしたこと を学んだ。

1 2(「剽窃をしないための正しい引用/参照の方法」 青山 亨 参考資料 3 Wikipedia を

**コメント [y58]:** 授業中に説明しましたが、出版年を書くのは、やたら古い文献だと情報が古いだらうから。都市を書くのは、外国語文献の場合、どこの国か(どこの都市か)は信憑性を考えるうえで参考になるから。閲覧日時を書くのは、ウェブ情報は日々更新されているからです。

**コメント [y59]:** 『コピペと言われないレポート』7ページに書いてあります。

**コメント [y60]:** 具体的にどのようなことを学んだのか書くようにしましょう。

どう使うか 二文目と 四文目より抜粋)

file:///C:/Users/ta3ku/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/7MAWCVKS/2013-S2-正しい引用の方法-2013-12-16.pdf

**コメント [y61]:** あなたのパソコンのドライブです。これではあなた以外アクセスできません。

今回の授業は、コピペと引用の違いと、正しい引用のやり方だった。

コピペとは、引用であることを示さないことで、正しい引用は、出所表示、明瞭区性、主従関係を全て満たすものである。

また、大学の論文、レポートとは、賛否両論のある和題やまだ正解の見つからない問題に対し、自分の意見を正しいものとして主張し、根拠を揃えたものでなければならない。そのために引用をするのだが、引用ばかりになって、主従関係を損ねてはならない。複数の情報源を見て、賛否が対立している箇所は、積極的に検討するべきである。上達させるには、日々の練習あるのみだ。

質問 レポートを正しく書くための練習は、まとまった時間が必要で、日常的には取り組みにくいと思われる。英単語の暗記のように、日常的にこなすには、**どうすれば**いいだろうか。

自分なりの回答と根拠

空いた時間にある社会的なテーマについて賛成、反対の主張を掲げる本をそれぞれ読み、日常的に両者の対立している点を検討する訓練をこなす。社会的な話題に対して多角的な視点から考察するくせをつけ、両者が主張を展開するための根拠を見極めるようになる。

**コメント [y62]:** この授業では宿題として毎週文章を書くようにして、学生が習慣化できるようにしています。

今回の講義では、レポートを書く際に大切なことを**学ぶこと**ができました。

たくさん調べた上で正解のない問いを探し自分の正解をみつけ根拠を元に論じていくこと、その中で引用するときはしっかり引用先を示しておくことが大切だとわかりました。

**コメント [y63]:** 具体的にどのようなことを学んだのか書くようにしてください。

私は大学に入るまでにレポートを書いたことがない。小論文を書くときは、「思う」を使わず「考える」を使わなければならないと教わった。しかし、小論文とレポートは違う。レポートは、「思う」や「考える」を使うのではなく、自分の意見、その根拠を書かなければいけない。根拠を書く時には自分で考えるのではなく、自分で調べたことを根拠にしたらより説得力が増す。しかし、調べたことを丸写しをしてレポートを作成してはいけない。丸ごとコピペをすると自分の**根拠意見**ではなくなってしまう。**七か七そこで**、コピペでは

なく、引用をして自分の根拠を伝えること~~が~~重要である。自分がどこの情報源を参考にしたのかがわかるようにしなければならない。具体的には、主従関係、明瞭区分性、出所表示~~は~~が、引用するうえで大事である。しかし、私はレポートを書く時に自分の根拠に何を書いたらいいかわからない。なぜなら、調べたことを自分の根拠の参考にすれば、自分の根拠は引用文だけになってしまうからだ。だから、引用文だけにならないように~~工~~夫していかなければならない。

**コメント [y64]:** どんな工夫をするのですか？授業では、まずは複数の文献を読むこと、そのうえで「問うべき問い」を把握すること、その問いに答えるために引用を利用すること、と言いました。

今回の授業の目的は「コピペ」と「引用」の違いについて理解することであり、授業では主に、引用する際の注意点や明示の仕方について三つ教わった。一つ目は「出典を明記すること(出所表示)」であり、出所表示に示すべき情報は引用元により異なる。二つ目は「引用箇所を鍵括弧で括ること(明瞭区分性)」である。三つ目は「引用箇所は少量にすること」であり、あくまでも問題を解決するという目的で引用を利用しなければならない。そのため、情報源を一つしか見ないのではなく、あえて反対意見も探してみるとよい。

今回、引用の仕方については理解したが、どのタイミングでどのような文章を引用すればよいのかはあまり分かっていない。これから引用を効果的に活用し根拠のある文章を書くためには、前回の授業で教わった反復練習が必要である。

今回の講義では「コピペ」と「引用」の違い、正しい「引用」の仕方について学んだ。今までは感想文や作文といった、そのときの自分の知識や思い、体験などをまとめた文章を書くことがほとんどだった。一方でこれから書く機会の多い論文やレポートはこれまでの文章と違い、客観的な根拠や理由に基づいて、「正しいこと」として自分の意見を述べる必要がある。しかし、「引用」が論文の大部分を占めるようになると、自分の問題意識を解決するという「引用」の目的から逸れ始めてくる。また、「引用」はあくまで自分の意見を補強するものであり、それをそのまま自分の意見とすれば、「引用」ではなく「コピペ」と言われてしまうだろう。正しく「引用」を利用することで、自分の意見に説得力を持たせることができると学んだ。

説得力のある文章を書くには~~客観~~的根拠と理由を示す必要がある。そういったものを正しく得るには、知識を知れば知るほど判断力がつくため知識を持つことが大切である。また、根拠のある文にするには自分が納得いくまで調べ尽くすことが大切である。このよ

うに、正しい情報を見分ける力は自分自身が地道に行っていって、身に付けていくしかない。

論文・レポートとは、根拠となる情報を前もって調べ、自分が正しいと主張をするものである。その際に調べた情報をどう使うかが大切である。情報源の引用先を示さないと「コピー&ペースト」と呼ばれるカンニングに近い行為となってしまう。そうならないために、出典先を明示する出所表示、引用先を明示する明瞭区分の2つを行うことが重要である。ウェブページを引用する場合は制作者、ページのタイトル、URL、閲覧日時を表示する。本を引用する場合は著者、タイトル、出版社、出版年、ページを表示する。論文を引用する際は著者、タイトル、掲載誌名、出版年、ページを表示する。このように出所表示をすることで読者が速やかに出典を確認することができる。また、引用とはあくまで問題を解決するための目的で利用するものなので、引用する部分はなるべく少なくする、といった主従関係も、書いていく過程で意識する。もし引用部分が長くなりすぎてしまった時は、情報源が一部分しかないことが原因なので、自分とは反対側の意見に立って考えてみるとよい。そうすることで、学問的に論じるべき点が見えてくる。

このように論文やレポートを書く際に大切なのは、繰り返し練習をすること。頭の中で考えるよりもまずは行動に移していくことが大事である。

今回の講義を受けて、私は、出典を明示したり、主従関係を意識しながらレポートを書くことに賛成だ。なぜなら出典を明示することで読者側が速やかに出典を確認することができるし、出典した側の人々の著作権も守られるからだ。そうすれば、引用した側の考えの発展にも繋がるし、出典した側の人々も、更なる知識の発達にも貢献できるからだ。

よって、引用した側もされた側も気持ちよく生活するには、正しく引用していくことが大切だ。

## 要点

引用とは出典の明記、引用部分をかきかっこでくくる、引用箇所は少しだけで自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用することである。レポートを書くときは引用ばかりせず様々な情報源から複数の意見を探し両者を比較する。検討するときの根拠として引用を用い自分の意見を主張する。良いレポートや論文が書けるように何度も反復練習する。授業に対してのコメント

今まで小保方晴子氏のコピペ論文による博士号剥奪のニュースなどコピペに関するニュースを見てもあまり理解できなかったが、今回の授業を受けてコピペとは何か、何をしてはダメなのかを理解できた。コピペにならないように、様々な立場の人が書いた本を読み、そこから得た知識を自分のものにし体系化していき、自分が論じるべきことを発見したい。これからこの授業のコメントを書くという反復練習でレポートの正しい書き方、正しい引用の仕

コメント [y65]: どのようなことが理解できなかったのか説明してください。



方を身に**着けていきたい。**

**コメント [y66]:** 決意表明でなく、(以下省略)

今回の授業で、論文・レポートとは何か、また引用とコピペの違いについて教わった。論文・レポートは高校までの学習(例えば調べ学習や小論文)とは違って自分の意見を「正しいもの」として主張するものだと知った。

また、引用する際に必要な三つのポイントについても学んだ。

**私**たちのような**学生**は、大体の人が調べ学習でのまとめの文章や小論文を書く際にそれっぽくまとまって見えるテンプレートのような文章の書き方を刷り込まれていると**言える**。また、調べ学習なども基本的に決められた授業時間内に終わらせてしまわなければいけないためにコピペも乱用されがちになっている。

**コメント [y67]:** どのような学生ですか？

**コメント [y68]:** どうしてそう言えるのか、根拠や理由を示してください。

今までの学生生活の大半をこのような状況で過ごしてきた私からすれば、主従関係が正しくとられた引用や「正しいこと」を主張する意見を書くことは非常に難しいように**感じた**。様々な文献や論文などを多く読み、何度も書いてみる「反復練習」をしてレポートや論文をきちんと書けるように練習するべきだ。

レポートを書く上で最も注意すべき点は、自分の興味や関心のあるものを論じるのではなく、賛否両論対立しており、学問的に論じるべきものを論じるということである。何故なら、自分の興味や関心があるものを論じて、ただの自己満足で終わってしまうが、学問的に論じるべきものを論じた場合、社会に貢献できる可能性があるからだ。以上より、学問的に論じるべきものを論じることは重要である。

初めてレポートを書くとき、決意表明型の文章になりやすい。また、正確には『』のように使うカギカッコを『』としてしまったり、誤った漢字変換をしまったりするといった問題もある。

そして、レポートや論文を作成する際に、多用してしまうのが、「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」などの言葉である。これらの表現は、はっきりと断定しないことで、理由を書かなくても誤魔化すことができってしまうため、使用するべきではない。きちんと意見の根拠や理由を書くことが大切だ。

ここで、改めて、レポートや論文についてまとめてみる。そもそも、レポートや論文とは何なのか。それは、自分の意見を「正しいもの」として主張するものであり、他者と対

話す際に要となる能力を育てるものであり、高校までの学習とは異なるものである。根拠のない思いつきや単なる感想を述べるものではない。調べてきたことを報告し、正解を探してくる調べ学習とは異なり、レポートや論文は、賛否両論のある話題や未だに正解の見つかっていない問題に自分が導き出した正解を与える。また、レポートや論文の、根拠を調べたうえで意見を主張するといった点からも、高校のときの小論文とは異なることが分かる。小論文は、何も調べずにその場で書くため、体験談+抽象的・一般的な結論といったパターンになりやすい。

それから、レポートや論文に必ず付きまとう問題が「コピペ」である。コピペはなぜ駄目なのか。それは、引用であることを示していないからである。1 出所表示、2 明瞭区分性、3 主従関係。これら3つの要素を守ることで、コピペは引用へと姿を変える。また、大部分が引用になってしまわないためにも、あえて反対意見を探すなど、情報源をたくさん見る必要がある。

高校で小論文を書く際には、自分の意見を書くために「思う」を使うのではなく、「考える」を使うように指導された。しかし、「考える」と「思う」は、表現は異なるが、意味は同じであり、理由をうやむやにしてしまう。こういったことを、大学生になるまでに知っていれば、レポートや論文で、もっと上手に文章が書けるようになっていたはずだ。なぜ、高校までに正しい文章の書き方を指導しないのだろうか。確かに、高校は、生徒を大学に合格させるために、文章を書くことよりも優先させるべきことがある。では、中学までの義務教育で文章力を向上させるための指導が必要ではないだろうか。なぜなら、中学生は高校生より時間も体力もあるうえ、文章力を早い段階から身につけることはメリットにもなるからだ。

授業の内容がよくまとまっています。

今回の授業の初めに、レポートのポイントを教わりました。まず、「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」は書いてはいけないということを学びました。これを聞いたときは、とても驚きました。なぜなら高校の時には、小論文の学習の時に「考える」を使うように指導を受けたからです。大学ではこれら4つのかわりに、「です」「ます」の様に断言をするということ学びました。しかし、断言をするだけでは不十分なので必ず理由を添えることも重要です。そして、「意見」は調べ、知り、考える「動機」にはなるが、考えの「正しさの根拠」にはならないことも学びました。これらのポイントを使い大学生らしいレポートを書くことができるようにしたいです。

さらに、今日の授業では、論文とレポートの違いを学びました。私は、授業を受けるまではこの2つの違いがわかりませんでした。今回の授業を受けたことにより、はっきりと違いがわかるようになりました。そして、論文とレポートは他者と対話するために必須

コメント [y69]: コメント y49 を参照。

コメント [y70]: 決意表明型。

の能力であるということも学びました。また高校の学習とは違うとは違うことも学びました。さらに、今回の授業では論文とレポートを書く上でしてはいけないことも2つ、学びました。1つは根拠のない思いつきを書いてはいけないことと、もう1つは単なる感想になつてはいけないことです。これらの論文とレポートを書く時の注意事項をしっかりと頭に入れて、これからの提出に生かしたいです。

コメント [y71]: 決意表明型。

最後に、今回の授業では論文とレポートを書く時にしなければいけないことも学びました。それは「引用」です。これには3つのポイントがあります。1つ目は、出典を明記する。2つ目は、引用箇所を鍵かっこでくくって、明示する。3つ目は引用箇所を少しだけにする。です。私は今まで、レポートで「引用」しなければいけないことを知らなかったの、これから生かしていきたいと思います。

コメント [y72]: 決意表明型。

#### レポートの書き方について

##### 調べ学習と論文・レポートの違い

調べ学習は、調べたことを報告し、「正解」を探すことだ。また両論がある話題や、まだ正解の見つかっていない問題について、自分の意見を「正しいもの」として主張するものがレポートである。

##### 小論文と論文・レポートの違い

小論文は、調べず、体験や抽象、一般的な結論をかくものである。一方、論文・レポートは、根拠を調べ、正しいこととして意見を主張するものである。

##### 引用とコピーの違い

コピーは引用であることを示さないことを指す。引用は、出典明記や引用箇所の明確化をし、すべてが引用にならないように少なくすることだ。

##### 「出所表示」に示すべき情報

###### ・ウェブページの場合

製作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時

###### ・本の場合

著者・タイトル・出版社・出版年・ページ

###### ・論文の場合

著者・タイトル・掲載誌名・出版年・ページ

大部分が引用にならないようにするために

・情報源を一つだけ見るのではなく、あえて反対意見を探す

・論じるべきことを発見する

→賛否両論が対立している点=社会的学問的に論じるべき点

→主従関係:その「問題」を解決するという目的で書く

## 質問・意見

論文・レポートが他者と会話対話するために必須の能力である、というのは、論文・レポートを書くことで論理力を身に着けるためでしょうか。聞き逃してしまったので、お答えいただけたら嬉しいです。

箇条書きでなく文章の形で書きましょう。箇条書きと文章の違いは、接続詞が適切に使われているかどうかです。

今回の授業で、何から引用するかにもよるが、引用とは出典や引用箇所などをきちんと明記し、なおかつ引用は少なく問題を解決するという目的で利用するものだとなった。また、論文やレポートを書くときに重要な点は、自分の考えとは反対の意見なども調べて知識を身につけ、「思う」や「感じる」などの言葉を使わずに主張するという事だった。

今回の情報総合科学入門講座の目標は「コピペ」と「引用」の違いを理解するであった。「コピペ」と「引用」の大きな違いは主に~~2つ~~3つほどある。

1つ目は「コピペ」は引用であることを示さない、それに比べて「引用」の方はどこを引用したのかをカギカッコをくくって明示するものである。これは「明瞭区分性」と言われていて、これがなかったらどんなにすばらしいことを書いていても「コピペ」と勘違いされる。

2つ目は「コピペ」は出典を明記していないのに対して、「引用」は出典を明記しなければならない。これは「出所表示」と言われていて、山口先生は刑務所からの出所がどうか言っていて面白かった。

最後に3つ目として、コピペはほとんど全てを文に引用してくるのに対して、「引用」はあくまでも、引用箇所は少しだけであることだ。このことは主従関係といわれていて、これはあくまで自分の問題意識を解決するという目的のため引用を利用する。

1つ目から3つ目までの中で、自分は主従関係というものが1番よくわからなかった。その理由としては他の2つは明瞭区分性や出所表示は言葉の感じで理解できるが、主従関係は何と何が主従関係になっているのかが、わからなかったのもうすこし詳しく教えてほしい。自分が考えるには主従関係というのは、情報を提供する側が主人であり、情報の受け取り手が従者であると考えている。

**コメント [y73]:** 論文を書くとは、反対の立場を理解し、必要なら根拠をつけて反論し、合理的な結論を出す作業です。それは、意見を異にする他者との対話と同じプロセスだからです。

**コメント [y74]:** 自分の問題意識が「主」、引用が「従」。

今回はコピペと引用の違いについて学んだ。引用する際に気をつけることは、出典を明記すること、引用箇所にかぎっこをつけて明記すること、引用箇所は少しだけにする事だ。これらの1つだけでも忘れてしまうとコピペになってしまうので注意が必要だ。また、大部分が引用にならないようにしなければならない。あくまでも自分の根拠の裏付けとして資料を提示することが大切だ。

今回の講義の疑問に思った点について質問させていただく。プリントの3枚目の原発の是非について、の所に書いてある「検討するときの根拠として「引用」を用いる。」という文章だが、どのような意味か深く理解できなかった。資料を集め、その資料を利用しながら自分の主張を作り、その主張を打ち出す際に利用した資料を引用するのだと私は考えるのだか、レジメに書いている内容だと順番が違うのではないか。その点についてお答えいただきたい。

**コメント [y75]:** たとえば原発の危険性についてであれば、どういう点がどうして危険なのかを、引用を用いて示すということです。

自分はこれまで小論文や課題を提出する時に「思う」「感じる」「考える」を頻繁に使っていた。「『断言を避けることによって自分の主張の根拠を曖昧示さないでごまかすにする』」と言った先生の言葉が凶星だった。また、自分はこれまで小論文とレポートの違いについて考えたこともなかったし、似たもの同士のようなものだと思っていた。が、そこには致命的な違いがあった。それはレポートとは自分の意見を「正しいもの」として主張するという事だ。しかし、自分の主張を正しいものとして主張するためには「知識」が必要である。自分の根拠のない思いつきや単なる感想、先入観や固定概念や主観ではなく万人に通ずる客観的な根拠や理由、そして文献などを示して主張をする必要がある。そのために、個人的な興味関心に終始してはならず、論理的思考力と物事を多面的に理解する能力が必要不可欠である。それは論文やレポートにおいて、なぜ大部分が「引用」になってしまうのか?という問いに繋がる。

引用とコピペは紙一重である。引用して良いレポートが書けたとしてもそこに出典や製作者、タイトル、掲載誌名を明記しないとコピペになってしまう。しかし、引用部分がレポートの大部分を占めてしまうと本末転倒である。その原因のひとつに情報源をひとつしか見ていないからという指摘がある。確かにひとつしか見ていないと展開に行き詰まってしまう、結局引用に頼る、というのが多いが、そこで敢えて反対意見を考えて批判的な視点で考え、その主張を示す根拠として引用を利用すべきである。

自分たちはこれから数多くレポートを通して自分の主張を述べる機会が増えるので、小論文のような書き方は避け、きちんと根拠を提示して論を展開するようにする。

今回は、引用箇所をカギカッコでくり出典を明記するのが引用であり、引用であることを示さないのがコピーであり、この違いを理解して上手く利用することを目的とした講義であった。

これまでネットや本で調べたことを自分の言葉で書き直せばコピーではなくなるものだと思っていたが、この講義でそれは引用の条件を満たしておらず間違っていることであると知った。

まったく知識のないことについてレポートを書く場合どうしても大部分が引用になってしまうのはどうすればいいのか。私は、まず下調べしたことの関係性などを考えて調べたことを繋げてから文章を書き出せば良いのだと考えた。

引用を上手く利用してレポートを上手く書けるようになりたい。

今回の講義は前回の復習と、レポートを書く際引用をするときの注意事項についてでした。要点は「情報の出所を表明明示、引用した部分をかぎカッコで区分して、自分の考えたことと引用文との主従関係をしっかりつける」というところだと思いました。この要点は引用をする際のルールですが、今まで引用を表記するような文章をあまり頻繁に見ることはなく、教科書でみかける程度だったので今回教えられるまで知りませんでした。特にその情報を載せた人、作成者まで表記するというのは意外で、しかしそう考えると今まで私がネットで得てきた知識はどれほど信頼性が無いのだろうと思うようになりました。

コピーになる例として、引用する部分が多くなりそうだから、自分の簡単な言葉に変換して引用ではないものにしようという考えは高校生までの私の考えによく似ているので、この考え方は捨てるようにします。大部分は知っている情報だが少しだけ曖昧な部分があるという時にこのような考えが浮かぶと思うので、解決策として「書いているレポートのタイトルについて知っている情報をすべて書き出し、その情報で自分の文を作る、その後調べ物をして足りなかった部分を引用として載せる」という方法でレポートを書きたいと思えます。

論文を書くとき、「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」などの言葉を使つてはいけない。まだ正解が見つかっていない問題でも、自分の意見を「正しいもの」として主張する。また、論文を書く上で引用は必ずしなければならない。引用をするときは、ウェブ・本・論文など、それぞれで決まった書き方をする。

論文を書くときは引用をすることが重要である。インターネットによると、「論文は、先行研究を踏まえたうえで、正確な事実を用いて、新しい論を立てる。したがって、論文は、

コメント [y76]: 授業でその対策を述べたはずです。

コメント [y77]: 決意表明型。

コメント [y78]: 具体的にどんな書き方が説明してください。

コメント [y79]: どうしてせっかく買った教科書でなくネット情報を見るのですか？

引用無しでは成立しない」という(青山 亨「剽窃をしないための正しい引用/参照の方法」<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/aoyama/2013-S2-正しい引用の方法-2013-12-16.pdf> 2018/4/21 アクセス)。

今持っている興味や関心はすべて個人的なものだと言える。思いは動機であって根拠ではないので、論文やレポートを書く場合、「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」などという言葉を用いてはならない。小論文は調べずその場で書くものであり、論文・レポートは賛否両論があったり、まだ正解が出ていない問題に対してよく調べ、それを根拠に自分の意見を正しいものとして主張するものである。また、引用をするときは「明瞭区分」「出所表示」「主従関係」に注意しなければならない。

なぜ引用ばかりしてしまうのかというと、情報源を一つしか見ていないからである。だから、あえて反対意見を探してみることも必要である。そして、賛否両論がある点に注意して、論じるべき点を、その問題を解決するという目的で書く必要がある。物事を論理的、客観的に解決しようとする、**答えはある程度定まってくる**ので、「答えは人それぞれだ」などとは言えない。また、論文やレポートは問題を解決するためにあるものなので、到底無理な結論を導き出してもいけない。

**コメント [y80]:** この問題の答えはこれだ！と確信できるまで調べましょう。

今回の授業は、「コピペ」と「引用」の違いを理解することがテーマだった。

そもそも論文やレポートとは、高校までの、正解を調べて報告するだけの調べ学習や、何も調べないでその場で書く小論文とは違い、根拠を調べ、自分の意見を「正しいもの」として主張するものである。そうする上で「引用」することは非常に重要である。

引用する上で主に大事なことは、出典を明記すること、引用箇所にかギカッコをつけて、引用箇所を明瞭に区分すること、引用は少しだけすること、の3つである。これをしなければ、コピペとして扱われてしまうことになる。

引用するにあたって、大部分を引用で占めてしまてはいけない。これを防ぐために、複数の情報源に目を向け、賛成意見や反対意見を考慮して自分の主張を打ち出すべきである。

大切なことは反復練習をして、身につけることである。

私は大学に合格するために多くの小論文を書き、この徳島大学も後期の小論文で合格したため、小論文を書くことには少しばかり自信を持っていた。しかし、論文やレポートを書く上で小論文を書く力は**不要**であり、全く違うプロセスで書かなければならない。調べ、知り、書き、書き直すというプロセスを繰り返し、説得力のある論文、レポートを作り上

**コメント [y81]:** 不要とまでは言いませんが、小論文と論文は別のものだということをはっきり理解してほしいですね。



げていきたい。

今回の授業の要点は、調べ学習と論文やレポートの「違い」を理解することである。

その根拠として、違いを理解していなければ正しい論文を書くことができず調べ学習で終わらせてしまうからである。また、今回の配布資料にあった「論文・レポートとは何か?」という項目の部分で論文とレポートは、「他者と対話するために必須の能力」とあったので今回の要点は違いを理解するということであるといえる。

**コメント [y82]:** どのような違いがあるのか、具体的に説明してください。

レポートを書く上で、数多くの情報を身につけ、モノの見方を学び、問題意識をもつことは重要である。そして社会的、学問的に論じる話題に関して、質の高い情報を調べ上げ、自分の考えを導く。そのために、同じ主題であってもそれぞれ違った観点をもつたたくさんの本を読むべきである。また、正解のない問題に対し自分の意見や考えを出すことが度々求められる。その時、自分だけの正解を見つけるために、手元の本の文章の意義、全体の内容を理解し、再び批判的に読み直すことがよいだろう。そうすることで、問いが生まれやすくなり、その問いを細かく分解しながら調査し、また新たな見解につなげることができるのである。

2017年の学生生活実態調査の結果から、大学生の一日の読書時間0分の割合が53.1%と半数を超えていることが分かる。またそれとともに、ここ3年連続で読書時間の平均も減少している。「本を読むべき」ということは一般に言われているが、なかなか定着していないのはなぜか。インターネットが普及し容易に情報を得られるために、結論を急ぐ感性が現代人に身につけてしまっていることが原因であるのかもしれない。しかし、自分の考えを深めることなく結論を出してしまつては、一向に「知恵」は生まれず、論理的に考える力も向上しない。本を読み、語彙力を向上させることで表現力もつき、考えを適切に伝えることができる。また、幅広く読書することによって総合的な判断も下せられるし様々な価値観を取り込むこともできるのである。

**コメント [y83]:** これでは出典の表記として不十分です。また、明瞭区分性も満たされていません。

自己は他者との関係で作られる。読書を通じて著者と対話し、論文やレポートを書くことで他者と対話する力をつけることが今後の課題である。

**コメント [y84]:** これでは単なる推定です。根拠やデータを示すようにしましょう。

今回の授業で、レポートとは、まだ正解の見つかっていない問題に対して、自らが決めた正解を主張するよう書くということを学んだ。また、引用については、1つの情報源しか

調べないと所謂「コピペ」とみなされやすくなるので、多くの情報、特に反対意見も調べることが大事だと学んだ。反対意見を調べると、その意見に対し、反論するためにまた調べ、と繰り返すことによって知識が体系化され、より主張に説得力のあるものになるからだ。

今回の授業の要点は「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」や「よく分からなかった」という表現を止めてちゃんと理由を述べること、明瞭区分性・出所表示・主従関係を示すこと、「コピペ」と「引用」の違いを理解することです。

意見としては僕は授業の中で「[[[[○○だったらどうしよう+]]]と杞憂するのではなく、まずやってみる+]]]と言っていたがそれには反対です。なぜなら杞憂というとマイナスなイメージになるが言い方を変えれば慎重ということです。何かに対して思い切って飛び込んでみることもいい事ではあるが、失敗が許されない場面などでは慎重になって時間をかけることが重要でしょう。たとえそれが杞憂だったとしても、慎重になりしっかりと考える姿勢はミスや最悪の事態を避けるためにはたいせつなことだからです。(慎重になりすぎて結局何も行動しないのは論外)

以上のことより杞憂に過ぎなかったとしても何かに取り組む前は時間をかけるべきではないだろうか。

#### 前回の反省と今後

今日の講義で自分のレポートについて反省した点が多くあった。まず、一つ目、決意表明型になり説得力や客観性にかけていたことである。「思う」「感じる」だけでなく「考える」も客観性の欠如につながるため理由を述べなければならない。そして、疑問文には自分なりの答えを書くようにもしなくてはならなかった。

前回の自分の疑問は「自分の興味関心は学問的に価値のあるものであるのか」というものであったが、現時点で抱えている興味関心はすべて「個人的なもの」と言ってもおそらく間違いはない。しかし、あくまでも現時点のものであり、しっかりと調べ、しっかりと知識を身に付け、さらに「知識の体系化」をすることで変わることもありうる。

#### 論文・レポートとは何か

まず、論文やレポートは自分の意見を「正しいもの」として主張するものであり、根拠のない思いつきや単なる感想とは全くの別物である。そして、ただ調べてきた「正解」を報告する「調べ学習」と違い、賛否両論があり、まだ正解の見つかっていない話題に自分が決めた「正解」を書くものでもある。最後に論文・レポートは入試の何も調べずその場

**コメント [y85]:** レポートや論文を書く練習をすることは、失敗が許されない場面ではありません。

**コメント [y86]:** きっと変わります。がんばってください。

で書き、「体験談+抽象的一般的な結論」というパターンの「小論文」と違い、根拠を調べたうえで「正しいこと」として意見を主張するものである。

#### 引用とコピペの違い

「引用」とは出所表示や明瞭区分をし、その上自分の問題意識・興味関心が主で引用が従であるという主従関係を持っていなければならない、それらとは逆に引用であることを示さないものを「コピペ」という。

詳しく「出所表示」についてみるなら、ウェブページでの場合は「制作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時」を、本の場合は「著者・タイトル・出版社・ページ」を、論文の場合は「著者・タイトル・掲載雑誌名・出版年・ページ」を示さなければならない。このような情報により読者が出展を速やかに確認できるようにしなければならない。

#### 「引用」が多くなるわけ

大きな理由として情報源を一つしか見ないことが考えられる。その対策として、あえて反対の意見を探すことも大切である。次に賛否両論が対立している社会的・学問的に論じるべき点を見つけることも重要である。

最後に大切なことは反復練習である。

学問的に価値のあるものとそうでないものを見分ける力はどうすれば身につくのでしょうか。それらの力を身に着けるには新書などの学問的に価値があるものについて研究し、書いているものを読むことが大切である。それは新書などはもともと学問的価値があるものから自分の興味関心に応じて選んでいるものであるから、価値があるもののについての知識が身につく。

コメント [y87]: まずは、多面的に知ることを。

コメント [y88]: 新書は、一般の人にやさしく説明したものですから、「学術的」なものではありません。

今回は、「学術的発想と書き方 1」の題目で、概要はレポートの書き方、引用の仕方だった。まずは、前回提出の授業レポートを振り返り、多かった書き方のミスについてや、意見の根拠を客観的に述べること、学生の質問とその解答(指摘)が取り上げられた。次に、「コピペ」と「引用」の違いを理解するために、論文・レポートが、「調べ学習」のように「正解」を探し、「小論文」のように何も調べずに書いたり、書き方にパターンがあったりするものではなく、自分が決めた「正解」を、根拠を調べたうえで書き、「正しいこと」として意見を主張するものであることが伝えられた。

また、「引用」は、コピペ扱いにならないようにするために、出典を明示する、引用箇所を明確にする、量を少しにせねばならず、読者が出典を速やかに確認できるよう、引用する媒体に分けて示すべき情報の説明があった。さらに、大部分が引用になることを防ぐために、反対意見等の情報源を増やし、社会的・学問的に論じるべき点を明確にし、「引用」がその「問題」を解決する目的のためのものだという「主従関係」をふまえて書くことが大切だとあった。

また、レポートの悪い結論の例の説明のあと、最後に、レポートの書き方でより大切なことが、レポートを書く「反復練習」であることが伝えられた。

今回は、私の意見として、この授業の良さを論じたい。

私は、今回の授業を受け、まず、「~と思う」の表現を避けるために「~と考える」と書くことも、理由をきちんと明示しなければ、同様に表現として不十分であることを学んだ。これは、自分が「正しいこと」として主張したいことを、いかに客観的に相手に説明できるかに関わっており、書く側にとって大事なことのひとつである。この意識は、毎週のこの授業コメントで、先生のおっしゃるように「反復練習」をすることで、大学のレポートや論文に限らず、相手に主張を分かってもらいたいときに生きてくるだろう。

また、前回教わったテーマでもあった論理的思考力や物事の多面的理解が、自分はまだまだ不十分だと思い知らされた。授業の中では、他の学生の主張や質問の紹介もあり、中には、一瞬読んだだけだと、なるほどと思わせる視点で書かれているものがあった。しかし、先生のご指摘を言葉で聞くと、自分が見逃していた視点が浮き彫りになり、講義内容の理解や、何が意見や質問として適する内容のものかの判断が甘かった自分に気づいた。

例えば、「いくら客観的な資料を提示しても、信じない人にとってはでっち上げと思われるのではないか」という意見に対して、昔の例で例えると、ガリレオ・ガリレイが、研究から地動説を証明しても、当時宗教的な面で信じない者には受け付けられなかったことが知られているように、その生徒の文章そのものは十分可能性のあるものである。しかし、授業でのテーマは、「自分の主張を正しいこととして相手に伝える力」であり、相手の反応はさておき、いかに主張を正しく伝えられるかに焦点が置かれている。

このように、今回の授業は、私の自分自身の意見の持ち方や、物事の理解の仕方の甘さを思い知らされるものであった。論点が少しずれた意見の内容に安易に納得してしまった自分には、自分や人の意見に対する批判的な分析が足りないだけでなく、授業の大きなテーマは何かを把握する力に欠けている。

ここで、先生が大量の学生のレポートの中でも、ひとつひとつを適格的確に分析されているのは、授業の論題が先生の思考の中ではっきりされており、それがそれを言葉として、また根拠づけて説明なさることができるからである。この力はどのようにすれば身につくのだろうか。普段、人にもものを口にして説明するときや、文章で伝える場面で意識して伝えることで実践練習をすることができるが、レポート・論文で上達させるためには、実際にレポートを書く場面で反復練習をすることが最も効果的だろう。このことから、毎週金曜日に授業レポートと自分の意見、質問をまとめるという練習を、メ切もあり先生の添削までであるこの講座は、学生が根拠をもって主張を持つ力、相手の意見に対して分析したり大切なことを把握する力を身につけるためにはうってつけの講座である。

がんばってください。

私が今回の講義で学んだことは2つある。

1つ目は、引用とコピペの違いである。今までの私は調べたことをそのまま書いていたが、今回の講義を受けてそれがコピペだということがわかった。そのため調べたこと論文などで書く時はきちんと引用したものを書くことが大切だと学んだ。しかし、引用ばかりすると引用が大部分になってしまうため、情報源を一つだけではなくいろんなところに目を向けることも大切だ。

2つ目は、小論文と論文、レポートの違いである。私は大学受験の時に小論文の練習をしたが、小論文は筆者に対する自分の意見を書き、自分が実際に体験したことを書くという浅いものだった。しかし大学で書く論文は、高校の時とは全く違うもので、まだ正解の見つかっていない問題に対する自分が決めた「正解」を書くというものだ。また今回の講義で「自分の意見を正しいもの」と書くことも大切だと学んだため、自分の意見を正しいこととして自信を持って書けるように、様々なことに挑戦し、体験して知識をつけていきたい。

コメント [y89]: 決意表明型。

今回の授業は前回のレポートの反省点やレポートの書き方についての内容でした。山口先生は、自分の主観、意思表示、決意表明などはレポートにおいては必要とされていないこと、「引用」と「コピペ」の違いは文献を明確に示すか否かという部分にあることをおっしゃいました。一応疑いとして、山口先生の言ったことが著書『コピペと言われないレポートの書き方教室+』（山口裕之 新曜社 2013年第1版 25ページ~34ページ）の部分を確認してみました。「複数の情報源を参照すれば、同じ事柄について矛盾する点が見つかり、単に要約したりコピペしたりするだけではすまなくなってしまうのです。」（『コピペと言われないレポートの書き方教室』山口裕之 新曜社 2013年第1版 27ページ）の部分などはそのまま言われていたので山口先生が書いたという確証がすこし上がりました。

コメント [y90]: 私の書いた本だということが疑わしいのですか？なんで？？

今回の講義で2つのことを学んだ。

1つ目は、前回の復習で、自分の意見を述べるときに「思う」「考える」を用いることは、意見をはっきり述べることを避けていることと同じだということだ。

ここで、疑問に思ったことがある。私は今まで思ったことを述べるときには、「思う」「考える」を使用してきた。しかし、レポートを書く際、これらの表現を用いることができないなら、自分の意見を述べる際「思う」「考える」の代わりに何をしたらいいのだろうか。

2つ目は、コピペについてである。高校までの調べ学習では、ネットで調べたことをその

コメント [y91]: 客観的な根拠にもとづく意見なら、「思う」などと書かなくても、「～である」と書けばよいでしょう。

まま写す、または自分の表現に書き換えて終わりという方法で済ませてきた。しかし、大学でレポートを作成する際には、それは通用しない、たとえ自分の言葉に変えたと**思**しても同じということを知った。コピペのレポートにならないために、ひとつの情報だけではなく、多くの情報を得て、自分の意見を書いたレポートを**作っていき**たい。

コメント [y92]: 決意表明型。

前回の授業の復習と、より詳しく論理的な文章の書き方であったり、それに準じたレポートの書き方を**学んだ**。

レポートの書き方は必ず学ばなくてはいけないものでありながら、未だ具体的な指導はあまりなかったので非常にためになった。

「コピペ」にならないようなレポートは今回の講義で書けるようになったはずである。

コメント [y93]: 具体的にどのようなことを学んだのか書いてください。

今回の授業で、論文は小論文と違って根拠を調べて書き、正しいこととして意見を述べるものであり、また、引用するときは出所表示、明瞭区分性、主従関係を守らないといけない。そして、引用が大部分にならないために、情報源をいくつか見たり、あえて反対意見を探したりする、ということ**を学んだ**。「反対意見が飛び交う職場は、より正しい決定がなされ、思わぬ決定がなされることがあるのです。」、「反対意見は会議を活性化させ、想像力を刺激する。」(みさき、心がおだやかになる読み物、

<https://www.kokoro-odayaka.jp/communication/21848/>、4月21日)。

反対意見というもの**は正しいものを生み出すことができるので**、あえて反対意見を考えることで新たな考えを持つことができる。よって、反対意見は自分の意見をより良いものにできる重要なものである。

コメント [y94]: 何者ですか、この人は？

論文・レポートに「思う」、「感じる」、「考える」、「印象を持った」などの主観的な言葉を用いない。自分の考えを示したり質問をしたりするときには、必ず何故そう考えたのかの理由を書く。また、コピペにならないようにするためには、引用を示すことが必要。引用とは、出典明記、出典箇所は「」で明示、引用は少なめで自分の意見との主従関係を調節することである。小論文は自分の体験を用いたり、抽象的な言葉を用いたり、一般的な結論を書いたりするが、論文では根拠を示し、「正しいこと」を書き意見を主張することが大事である。

「思う」や「考える」をやめたら、文を終えるときに**なんで締めくくればいいのか**分か

らないです。なぜなら反対の主張を示すとき、主張は主観的であるから、「～だ。しかし私は～ではなく、～だと考える。なぜなら～」と、理由を後に明示したとしても、主張したいときには「考える」を使ってしまいます。反対意見を主張したい時など、自分の意見を主張したいときはどうやって文を書いたら良いのでしょうか。

**コメント [y95]:** 「反対意見を主張すること」と「自分の意見を主張すること」がどうしてイコールなのか分かりませんが、客観的な根拠のある正しい主張であれば、「～である」と書けば十分です。

今回の総合科学入門講座は、論文やレポートを書く際の注意についての授業だった。今までの調べ学習の発表や小論文とは違って、論文・レポートは自分の主張が「正しいもの」だとし、根拠も調べて書く。調べた情報についてはその出典を明記することも重要であるため、出所表示の方法についても注意しなければならない。「引用」と「コピー&ペースト」は混同されがちだが、「引用」ではきちんと出所を示し、情報の発信者を尊重するという点でこの二つは異なっている。その意図がなくとも、あたかも自分が作成したかのように他人の文章を利用することは著作権の侵害にもなる。作られたものに頼るばかりでは、思考力や書く能力の向上も見込めない。文章作成にかかる時間が短縮できるという一点のみが「コピー&ペースト」の利点であるが、自身の能力向上を目指す学生にとっては、一文の得にもならないと言える。

**コメント [y96]:** それだけでは不十分です。3つのポイントを確認し、しっかり実践するようにしましょう。

今回の総合科学入門講座では、まず、授業コメントを書くうえで注意すべき点が挙げられた。「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」というような言葉は使わずに、理由を書くようにするということだ。そして今回の講義は「コピペ」と「引用」の違いを理解する、という目的で話が進められた。論文・レポートとは、高校までの学習とは異なり、自分の意見を「正しいもの」として主張する、他者と対話するために必須の能力である。「コピペ」は引用であることを示さないのに対し、「引用」は 1 出典を明記(出所表示)2 引用箇所をカギかっこでくくって明示(明瞭区分性)3 引用箇所は少しだけ(主従関係)、という違いがある。また、読者が速やかに確認できるように、「出所表示」に示すべき情報は、ウェブページの場合「制作者・ページタイトル・URL・閲覧日時」、本の場合「著者・タイトル・出版社・出版年・ページ」、論文の場合「著者・タイトル・掲載誌名・出版年・ページ」である。論文・レポートの大部分が「引用」になってしまうのは、情報源を一つしか見ないためであり、反対意見を探してみるのもポイントで、大切なことは、反復練習だ。私は、まだ本格的な論文・レポートを書いたことがないので、今回の講義で学んだことをしっかり身につけて、繰り返し練習していきたい。

**コメント [y97]:** 決意表明型。



### 【授業内容まとめ】

コピペと引用の違いなどの、論文・レポートに関することを学んだ。

まずレポート・論文とは自分の意見を「正しいもの」として主張するものであり思いつきや感想を書くものではない。また、思いは動機にはなるが根拠にはならない。調べ学習は調べてきたことを報告するだけであつたり「正解」のあるものの「正解」を探してくるものであるのに対し、論文・レポートは賛否両論があつたりまだ「正解」の見つかっていないあつたりする話題の「正解」を自分で見つけて決めるものである。

また、同一視されがちな小論文は、出された話題に対し、準備なしに自分の体験に基づいたり抽象的だったり、パターン化された解答をするものであるが、論文・レポートは事前に調べてきたことに基づき自分の見解・解釈を「正しいもの」として書く。この際、調べた情報の使い方に注意しなければならない。

調べてきた情報を出典を示さずに使う、いわゆるコピペはしてはならない。出典を明記し、引用箇所をカギカッコで示さなければならない。また、そうしたからといって文章のほとんどが引用であつたらコピペとそう変わらない。引用箇所は少しに抑え、あくまでも自分の主張をメインとする主従関係を意識して書くべきだ。出典を明記する際に示すべき情報は、ウェブページの場合は製作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時、本の場合は著者・タイトル・出版社・出版年・ページ、論文の場合は著者・タイトル・掲載雑誌名・出版年・ページだ。これは読む人が出典元を確認するのを容易にするためだ。

ただ、そうしたことを守っても情報源がひとつだと引用が多くなりがちであるので、あえて反対意見を探すなどして複数の情報源を探して論じるべきことや賛否両論の対立点を発見するといふ。それから両者を、引用した内容を根拠として比較し検討して自分の主張を打ち出すといふ。

そこまでいっても「ひとそれぞれ」や「～べき」、「ある程度はやむを得ない」など元も子もない結論をしてしまつては台無しである。

こうした論文・レポートの書き方を身につけるには何よりも反復練習だ。

内容は良くまとまっています。

### 【意見・質問など】

いい意見等をウェブページで見つけて、しかしその出典が明確に記載されていない場合、それを使うのは諦めるしかないのだろうか。

### 【その根拠・理由】

折角いいと思えるものを見つけてもそれで諦めるしかないのだとしたら勿体無いように思えたから。

### 【自分なりの解答】

引用を諦めたくなければどうにかして出典が明示されている同じ意見を探すしかないのかもしれない。

コメント [y98]: どうすればよいかは『コピペと言われないレポート』30ページに明記されています。

今回の授業では、前回の授業コメントをもとに論文、レポートの書き方について学んだ。まず「思う」に関連する言葉は用いず理由、根拠を書くこと。疑問を書く際は具体的にどのように理解し、どこがどうして理解できなかったか<sup>カ</sup>を説明する。また論文は自分の意見を「正しいもの」として主張するものであり、「思い」は動機にはなるが「正しさの根拠」にはならないので用いるべきでない。論文は調べた根拠を引用することが多いので、コピペにならないよう「出所表示」の書き方を習った。そして大部分が引用にならないためには情報源を一つに絞らず、あえて反対意見や異なる著者の文献を読む中で論じるべき点をさがすことが必要と知った。

今後の活動の中で重要なのは、まずしっかり調べしっかり知識を身に着けながら、文を書く反復練習をすること。「なんでもうまくいくちょっとした言葉」はなくとにかくやってみる中で身に着けるしかない。

今回の講義は、論文・レポートの正しい定義、引用とコピペの違いについてだった。

論文・レポートは、賛否両論ある問題を扱い、自分が決めた「正解」を、根拠を調べたうえで書く。この時、調べた情報が引用であることを示さなければ「コピペ」となる。また、大部分が「引用」にならないためには、情報源を一つに限らず、反対意見を探してみるのが良い。そうすることで、賛否両論が対立している点に気づき、論ずべきことを発見できる。

以上の講義内容から、論文・レポートと小論文が全く違うことを知った。講義でも言われたように、「両方とも論文とつくから同じようなものだ」と思っていた。しかし、何も調べず書き、一般的な結論で終わる小論文は、正解の見つかっていない問題に対し、自分の意見を「正しいこと」として主張できない。小論文での主張は、主観的な経験や考えに基づいているため、客観的な根拠・理由に欠け、説得力のないものとなるのだ。さらに、情報源が一つであれば、自分の主張の根拠・理由はその情報に偏るため、客観的にならない。だから、複数の情報源を持つことも重要だ。

今回の講義では、引用とコピペの違いについて学んだ。そのなかで、引用とは、出典を書き、カギカッコをつけて少しの部分を使用することだということと、レポートは、根拠を用いて主張することだと知った。

私が、論文を書く際に自分の意見を明確に主張することは難しい。高校時代の小論文では、自分の体験談や考えを抽象的に述べることもある。一方、大学で書くレポートは、様々な文献を調べ、自分が正しいと考える根拠を述べる。このことは、大学に入ってまだ時間がたっていない私には困難である。今まで自分が書いてきた文章とは違った形式に早く慣れるように工夫して取り組んでいきたい。

コメント [y99]: 決意表明型。

今回の授業で最も重要な点は、レポートを書く際のコピペと引用の違いを正しく理解することである。さらに、ただ引用を用いてレポートを書くだけでなく、問題解決に役立てる必要がある。たとえ引用箇所を明示して出所を記しても自分の主張や解答が書かれていなければ調べ学習と変わらないからだ。

今回の授業は、学術的発想と書き方が大きなテーマであった。私たち自身が現時点で抱いている興味関心は、すべて「個人的なもの」であり、知識を知れば知るほど判断に迷うのではないかなどの杞憂があるかもしれない。しかし、しっかり調べ、しっかり知識を身につけることが大切である。そして、論文・レポートは自分の意見を「正しいもの」として主張するものであり、「調べ学習」や「小論文」とは違うものであるということであった。論文には、「出所表示」や調べたところをはっきりと表す「明瞭区分性」、ある問題を解決するという目的で書く「主従関係」が必要だ。

コメント [y100]: 具体的にどう違うのか、書いてください。

論文には前文で記したことが大切であるということが分かったが、コピー・アンド・ペーストをした場合どうなるのか。コピー・アンド・ペーストをした場合には著作権を侵害するのではないかと考え、「法テラス」のホームページを調べると、

「著作権法で保護を受ける著作物とは『思想または感情を創作的に表現したもので、文芸、学術、美術または音楽の範囲に属するもの』である。図、表、写真やインターネット上の情報も著作物に該当する。憲法や法令、裁判の判決文は著作物だが、周知を目的としており、保護は受けない。著作物の作成者は著作権者として、独占的に利用する著作権を持つ。著作物を利用するには、原則として著作権者の承認を得なければならない。」(——監修・法テラス——日本司法支援センター—法テラス「論文コピペ 引用ルール守って 丸写しは著作権法違反」、——)

——URL [www.houterasu.or.jp](http://www.houterasu.or.jp)——、閲覧日時—2018年4月22日(閲覧)。

また、もしこの規則を破ってしまうと、

「著作権者から複製権違反として民事上の責任(損害賠償や差し止め)をとって追及される恐れがあり、刑事上も10年以下の懲役もしくは1千万円以下の罰金などの可能性がある。」

(監修・~~法テラス~~日本司法支援センター 法テラス「論文コピペ 引用ルール守って丸写しは著作権法違反」~~URL~~ [www.houterasu.or.jp](http://www.houterasu.or.jp)~~閲覧日時~~2018年4月22日~~閲覧~~)。

引用は、あくまで客観的な意見を使い自分の意見の正しさを表すために使うので少ないほうがよいのだが、かといって全く引用部分がないのもいけない。それは、前文で示した通り客観的な意見がないと、自分の意見が正しいのかを判断する材料がないことになる。また、客観的なものがないと、それは主観の多いただの意見文になってしまう。

「学術論文というのは、研究者が全くの独創で考えて書くものでは『ありません』。まずその分野における『先行研究』、つまり過去の多くの研究者が研究して発表した論文などの成果を、ひと通りレビューすることが求められるのです。」(~~製作者~~冷泉彰彦~~Newsweek 日本版~~「プリンストン発 日本/アメリカ 新時代 コピペがゼロで、100%オリジナルな学術論文は許されないという理由」~~Newsweek 日本版~~●年●月●日号、~~URL~~ <https://www.newsweekjapan.jp>~~閲覧日時~~2018年4月22日~~閲覧~~)。と、記載されている。今回の授業で学んだ、「主従関係」が大事になってくる。

コメント [y101]: これはトップページで、引用されている記事の URL ではないようです。

今回の総合科学入門講座では論文やレポートとはなにか、そしてそれらを書くにあたり、資料をどう引用するかを学んだ。その中でも、特に大事ことは「賛否両論のある話題に対して客観的に論じる」ということだ。

ある一つの賛否両論がある話題に対して客観的に論じるには前回の講義内容である物事を多面的に理解することが必須だ。そのためには多くの資料をみることであらゆる方向からその話題を考えなければならない。情報化社会となった今日において、インターネットを使うことで多くの情報を簡単に、短時間で集められるようになった。「コピペ」という言葉も、いつの間にか世の中に浸透し、大学生のコピペレポートという大きな問題にもなった。莫大な情報量を処理し、自分にとって必要な情報はどれか、どれが正しい情報なのかを見極める力も必要である。この処理した情報をあたかも初めから自分が考えたかのようにレポートを書いてしまうことで当人の悪意がないにも関わらずコピペのレポートが出来上がってしまう。

また、「多くの情報がある中で、課題に関係する正解だけを見つけるために課題の言葉を検索し、上位にヒットした中から授業に一番近いであろうページのみを参照する。情報源を一つしか調べないためにコピペや要約で満足してしまう」(~~参考資料~~山口裕之~~『コピペと言われないレポートの書き方教室』~~p25~~新曜社~~、201309年~~出版~~、25ページ)。ただ一つの情報・意見では参照したページを執筆した人だけの意見を参考にしているだけにすぎない。賛否両論が対立しているということは少なからず「賛成」と「反対」の意見が二通りあるにも関わらず、自分の考えと賛同する意見のページや資料だけを見てしまう。それ

ではなぜこの対立が起きているのかを理解することはできない。賛否両論のある話題に対して客観的に論じるためには莫大な情報量の中から様々な方面からみた、必要で信頼性のある情報を集め、それをコピー・要約するのではなく、自分の意見に説得力を持たせるための引用として使用しなければならない。

コメント [y102]: そうすることで、「問うべき価値のある問い」をつかむことがまず大切です。

今回は小論文と論文の違いや、コピーとレポートの違いについての講義だった。まず小論文はその場で考え一般的なことを論じるが、論文やレポートはまだ正解の見つかっていない問題について自分の意見を正しいものとして主張するという違いがある。論文では正しい情報の利用が大切であり引用するときは出典を明記すること、引用した場所をかきかっこでくくること、引用する量は少しだけすることが重要だ。特にネットで見つけるときにはweb ページの制作者が明確なものを選ぶとよい。Web ページは誰でも作ることができ匿名では信ぴょう性が低いからだ。また、大部分が引用になってしまう原因は情報源を一つしか見ないからである。より社会的・学問的に論じるためにレポート一つにつき関連する本を最低でも二冊はほど読まなくてはならないむとよい。レポートをうまく書くには杞憂せずに反復練習することしかない。これからレポートを書く機会は沢山あるため様々な本を読み反復練習していきたい。

論文を書く上で引用は必要であり、タイトルや著者だけでなく出版元も明らかにする必要があるということが今日の講義で初めてわかった。論文を書くきっかけとなる学問的な興味関心を得るために大学生の間に十分な学問的知識を身につける必要がある。自分の意見のみでなく反対意見を探すことで引用のみの文にならないだけでなく、そのものを一面的でなく多面的な見方ができるのではないか。

「~と思う。」は書かないようにしていたが、「~と考える。」も書くのは良くないということを知った。語尾をこのように書きたくなるのは、理由を書かずに自分の思ったことを述べてやうとしているからなので、根拠のある文章にするように心がける。そうすると、根拠を調べたうえで「正しいこと」の意見を主張する、論文になる。

コピーは引用であることを示さないという意味で、盗作になってしまうため、してはいけない。コピーではなく引用にするためには、出所表示、明瞭区分性、主従関係に気を付ける必要がある。また、引用する際には、一つの情報源ではなく、あえて反対意見を調べ

てみたり、賛否両論が対立しているところを見つけたりして「どちらが正しいのか」という問いを見つけ出すことが大切である。

今回の講義を通して小論文と論文、レポートの違いや調べ学習との違いを学んだ。論文では自分の主張に客観的な根拠を示すことが大切だとわかったのでこれから論文を書く際には根拠の明確さを大切にすることを**こころがけたい**。

私は今回の講義からコピペはしてはいけないと**思った**。自分の主張に他者の文献を利用するときは出典を明らかにしようと**思った**。

コメント [y103]: 決意表明型。

#### <授業の要点>

論文・レポートは、自分の意見を正しいものとして主張するもので、賛否両論あるものや、正解の見えない問題について述べるものである。また、コピペのというものは、引用であることを示さないことであり、1引用は出典を示し、2出典をカギカッコでくくること、3少しだけしか使わないことである。あくまで、自分の問題意識を解決する目的で引用する。大部分を引用にしないコツは、あえて反対意見を探し、論じるべきことを発見することである。これらを反復練習することで身につけていく。

#### <自分の意見>

大部分が引用にならないよう、まずは賛成・反対に関係なく、情報を集め、たくさんの意見から自分の考えを明確にさせることが重要だ。またその上で、主観的にならず、自分の興味関心に意見が偏らないようにすることも大切だ。

今回は、「コピペ」と「引用」の違い、「論文」と「レポート」とは何か、「小論文」と「論文」は別物であるという講義があった。特に、コピペにならない書き方が重要だと**思った**。なぜなら、コピペにならないための方法があり、その方法を身につければ誰でもコピペと言われずに書けるからだ。そのためには、引用と出典を明示することが大事になる。それと、一つの情報だけで判断せず、複数の情報を参考にするのだ。一つの情報だけでは、偏った見方や判断になりやすい。さらに賛成意見だけや反対意見だけではなく、両方の意見を取り入れるべきだ。両方の意見を取り入れることで、よりたくさんの思考ができるようになる。引用した場合、その箇所をカギカッコでくくりはっきり区別することが必要だ。区別がないとコピペとみなされる。引用するのは少しにして、自分の言葉を増やすように

工夫することだ。あくまでも、引用は問題解決のものとして使う。これらの方法を使い、練習を重ねればコピペと言われずに書くことが可能だ。判断が難しいこともあるかもしれないが、実践してみる。

知識を習得するのに心配することはない。正しさは万国共通で、普遍のものである。引用は出所表示、明瞭区分性、主従関係をおさえたもので、コピペは引用であることを示さないもの。反復練習が大事である。

正しさが覆ることはあるのだろうか。

その時代にあった人間の考え方があって、どういゆう常識が流通しているかで正しさも変わってくる。今の考え方でいゆう破綻した文化になると、今の正しさは正しさではじゃなくなる。といゆうようなことはありえるのか。

予想

あり得る。社会が人間を創っていくから、その社会にあった思考の型があるはず。ならば、その社会自体が違えば正しさも違う。

今回の総合科学部入門講座で、大部分がコピペになってしまう原因は情報源を一つしか見ないから、と学んだ。

今回はコピペのレポートを作成する学生がどのくらいの割合で、またなぜコピペをしてしまうのか、以下ではこの点について考察する。

まず、そもそもコピペとは何か調べてみる。ウィキペディアによると、「文章やデータなどをコピー(複写・複製)し、そのコピーしたものを別の場所などへペースト(転写・貼付)するという操作を表すコンピュータ用語」のことで、キーボード上の各種キーの組み合わせによって発動するものもあれば、マウスなどのポインティングデバイスの操作で行えるものもある」という(ウィキペディア「コピー・アンド・ペースト」の項目による)。

いったいどれほどの大学生がコピペのレポートを作成したことがあるのか、タウンワークマガジンによると「レポートのコピペ経験者は約 2 割。ネットで手軽に資料が検索できる時代だが、意外と皆、真面目にレポートを書いている」という 2)。この事実から、コピペのレポートを作成している学生の割合は比較的少ないことがうかがえる。つまり、日本人特有の性格である、秩序に忠実といった点に関与していると考える。

しかし、それでもなぜコピペのレポートを作成している学生がいるのか、タウンワークマガジンによると「自分の力で書き上げたい気持ちより、面倒くさい気持ちが勝ってしまう」という 2)。インターネットの普及により、文書でのコピペよりもマウスやキーボード

コメント [y104]: なぜ今回の授業を受けてこの問題を問うのか、授業のどの部分と関連があるのかを説明してください。

コメント [y105]: 具体的にどのようなことを考えているのか不明です。

コメント [y106]: 根拠がありません。

コメント [y107]: 今回のコメントでは、コピペについて一つの情報源しか見ていないですね。

コメント [y108]: なぜこの点を考察するのか、理由を説明してください。

コメント [y109]: 『コピペと言われないレポート』の冒頭に書いてありますが、せっかく買った教科書でなく、どうしてウィキペディアを調べたのですか？

コメント [y110]: この調査一つだけから、「事実」と断言できるでしょうか？複数の情報源を調べてみよう。



で操作することで簡単に作成できてしまう点が、コピペのレポートを作成してしまう原因なのである。さらに文書の一部を書き換えたのでコピペにはならないといった間違った考えの学生がコピペのレポートを作成しているといったケースも存在するのだ。

つまり、コピペのレポートを作成する学生を減少させるためには、レポートの書き方を教える講義を開設することが必要だと考える。

またコピペのレポートかどうか判断するソフトウェアを導入し、もしコピペが発覚した場合には厳正な処分を下す必要があると考える。

こうすることにより、学生に適切なレポートの書き方の基礎を身につけさせることができ、真面目にレポートの作成に取り組むことができるからである。

参考文献・ウェブページ一覧

1) ウィキペディア「コピー・アンド・ペースト」-Wikipedia, [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%94%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%89%E3%83%BB%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B9%E3%83%88#%E3%83%88%E3%83%88](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%94%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%89%E3%83%BB%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B9%E3%83%88#%E3%83%94%E3%83%BB%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%88)主なコピー・アンド・ペースト方法 2018 4/20 アクセス.

2) 制作者、「タウンワークマガジン」(→トップページのタイトルでなく、引用したページのタイトルを書くようにしよう)

[https://townwork.net/magazine/job\\_wpaper/st\\_trend/16167/](https://townwork.net/magazine/job_wpaper/st_trend/16167/) 2018 4/20 アクセス.

今回の授業では、コピペと引用の違いについて学びました。大学に入る前までは、レポートや論文といったものを書く機会がほとんどなく、知識もない中で、これからはレポートや論文を書いていかなければなりません。そのうえで、やってはいけないコピペと、上手く使わなければならない引用との違いについて学べたのはとても良かったです。

今回の授業をまとめて、私が大雑把に解釈したコピペと引用の違いは、自分の知識でないものを書く時に、誰がいつ書いた物なのかや、どの部分であるかなどの情報を書かずに使うのがコピペ。きちんと細かく書いて使うのが引用ということです。今まで私が何かを調べて使う時にやっていたのは、完全にコピペかそれに近いものでした。大学の課題でそれをやる訳にはいかないので、今日学んだことを活かして、引用していかなければなりません。

また、良くない結論についても学びました。私は高校で小論文を勉強していたので、授業で出てきた良くない例が多く当てはまっていました。他の論文を読んで、論文やレポートの終わり方をきちんと学び、活用していきます。

コメント [y111]: 根拠は？

コメント [y112]: 「つまり」は言い換えの接続詞です(文法上は副詞)。この文章では、「つまり」の前後が言い換えになっていません。

コメント [y113]: 大雑把な解釈ではなく、授業で説明した引用のための3つのルールを正確に理解してください。

コメント [y114]: 決意表明型。

「思い」は調べ、知り、考える「動機づけ」にはなるが、考えの「正しい根拠」にはならないため、「思う」などと書かず、きちんと自分の答えを書くようにするべきだ。知識をたくさん知れば知るほど判断に迷うなどと、杞憂するのではなく、まずはしっかり調べ、知識を身につけるようにする。

次に、論文はコピペではなく引用する。引用は、出典を明示し引用箇所はかぎっこで括って明示し、引用箇所は少しだけにとどめるべきだ。引用ばかりになってしまうのは、情報源が一つだけだからであり、あえて反対意見を探してみるのがよい。

そして、引用を用いる際は、自分の問題意識を解決するという目的で利用することが重要である。

こうした中で、論文を作成するのに一番大切なことは、杞憂するのではなくとにかく反復練習することである。

このように引用すべきところは引用し、自分の論文をより深くしていくべきだ。

今回の講義では、引用とコピペの違い、小論文と論文の違いについて取り扱われていた。まず引用とコピペの違いは、大きくは引用を示さないかどうかの違いであり、引用でも出典を明記する出所表示、引用箇所をかぎっこでくくって明記する明瞭区分性、自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用するという主従関係がないと不十分であると学んだ。次に小論文と論文の違いは、小論文は何も調べないでその場で書くもので、論文は根拠を調べたうえで書くことだと学んだ。私は論文とレポートの違いは文の量であると捉えているが、実際にはどう違うのか知りたい。

**コメント [y115]:** 授業で宿題として出るのが「レポート」、卒業するときを書くのが論文（卒業論文）。内容や形式は基本的には同じです。

なぜ引用ばかりしてしまうのかというと、情報源を一つしか見ないからである。

「複数の情報源を参照することによって、同じ事柄について矛盾する点を発見でき、単に要約したりコピペするだけでは済まなくなる。それは、議論が一面的・一方的にならないためにも重要である。」（[山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』-新曜社、2017年、p27](#)）。

つまり、幅広い視野を持って物事を多面的に見て複数の情報源に目を向けることは、大切である。また、複数の情報を集めて書いたレポートは内容の濃いものとなり、良いレポートとなる。

今回の授業では、新たな状況や知識に対する適切な評価、価値判断できる状態が知恵であり、論文やレポートを書く上で客観的な根拠をもって自分の意見を主張する能力は、誰かと対話するときに必須の能力だということを学んだ。また、小論文と論文やレポート、コピペと引用の違いも教わった。

本当に誰かと対話するとき、客観的な根拠をもって自分の意見を主張する必要があるのだろうか。自分の主観的な思いだけで主張してもいいのではないか、と思う人もいるだろう。

日本マンパワーの「対話と会話は何が違うのか」という資料によると、「会話の中の1つとして対話を位置づける 大きな違いは『意味』を共有できているか」とあり、また「対話の本質は『意味』にある」とある。(日本マンパワー「sample.pdf」[http://www.nipponmanpower.co.jp/ps/choose/textbook\\_pdf/dialogue/sample.pdf](http://www.nipponmanpower.co.jp/ps/choose/textbook_pdf/dialogue/sample.pdf), 2018.2.1 アクセス)。つまり、対話には誰かと自分の意見、また相手の意見の意味を共有する力がある。自分の主観的な思いはあくまで自分の主観であって、相手にその意味は伝わりづらい。だがそこに客観的な根拠が加わることでぐんと相手に伝わりやすくなる。よって対話が成立するのだ。

コメント [y116]: 何者ですか、これは？

この授業での要点を私なりにまとめてみる。

まず、今回の講義のキーワードの一つとしてコピペと引用があげられる。コピペとは引用であることを示さない。それとは逆に引用は1 出典を明記する。(出所表示)。2 引用箇所をカギかっこでくくって明記する。(明瞭区分性)。3 引用箇所は少しだけ。自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用する。(主従関係)。引用はレポートの小部分に使うのが良い。しかし、多くの人は大部分を「引用」にしてしまう。それは情報源を一つしか見ないからである。あえて反対意見を探してみることが大切である。「なんでもうまくいくちょっとした一言」なんてものはない。

確かに、私も何か課題が出た際に引用を大部分に使っている。楽をしたために賛成か反対かを先に決めて一つの情報を見ただけで結論を出そうとするからだ。賛否両論が対立するということは、その分論じる価値がある。自分の興味関心でレポートを書いてもいいように視野を広く持ちたい。

コメント [y117]: 決意表明型。

大学のレポートは高校までの調べ学習と違い、正解のない問いに対して自分の意見を述べるものである。そのためには文献を「コピペ」ではなく「引用」することも必要になる。引用するには出典を明記すること、明瞭区分性をつけること、引用を一部に抑えること

が絶対である。大部分の引用を防ぐためには、いくつかの情報源を参照し、反対意見にも目を向けるべきである。そうすることで社会的・学問的に論じるべき点が見えてくる。

レポートというものをこれまでに書く機会がなかったため、資料を引用し、そのデータをもとに自分の意見を述べる点で難しい。今回の講義を受けてレポートの内容のとらえ方が全く変わった。レポートは調べ学習のまとめ方と大きく変わらないものだと思っていたからだ。ネットという大きなデータベースがそばにある今、付き合い方には十分注意が必要である。

#### 要点

思うなどだけではなく、理由が必要

杞憂、決意表明はいらない

自分の意見を正しいものとして主張する

論文、レポートはまだ正解の見つかっていない問題、賛否両論のある問題を根拠を用いて自分の意見を主張する

#### 意見

複数の意見を用いる大切さを知った。

**コメント [y118]:** 具体的にどこがどう変わったのか書いてください。

**コメント [y119]:** ネットの中に「データベース」があります。ネットそのものは「データベース」ではありません。

**コメント [y120]:** 具体的にどうすればよいかは次回の授業で扱います。また、『コピペと言われないレポート』にも書いてありますから、繰り返し読み、実践練習を重ねてください。

1 引用とコピペの違いは、引用をであることを示すか示さないかであり、引用する場合は出典を明記しなければならない。また、引用箇所を少量に抑えたり、~~「」~~「」でくくられなければならない。引用は、自分の問題意識を解決するという目的で利用しなければならない。

またレポートを書く上で、正解は個人に委ねるという考え方ではなく、自分が決めた正解を書くことが重要である。

2 引用は必ず出典を明記するべきだ。

なぜなら、本等に乗っている論文は私達大学生のレベルからするとかなり高度なものであり、私達の今の学力でそのような高度な論文を書くことはほぼ不可能だからである。だから、もしコピペを行ったとしても、実力に見合わない論文というものがすぐに分かってしまうのである。

そしてコピペを防止するためにコピペ判定ソフトも作られているようだ。

「コピペ・レポートの蔓延という事態を受けて、主に大学教員向けに『コピペ判定ソフト』が実用化されています。そうしたソフトは、学生の提出したレポート本文のどの部分が『コピペ』なのか、色を変えて表示してくれたり、『コピペ率』を算定してくれたり、レポート同士の類似性(つまり友だちのレポートをコピペした学生がいないか)を示してくれ

たりします。」(山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』新曜社 2013 年 p.v)。  
このように引用かコピペかどうかは、**すぐに分かって**しまうものなのである。だからこれ  
から論文を書く際には出所表示を行い、正しい引用を学んでいくべきである。

**コメント [y121]:** バレるからやめる、では  
なく、自分の考える力を向上させるために  
やめるようにしましょう。

レポートや論文を書くにあたっての基本として大切なことは、『コピペ』と『引用』の  
違いを理解することである。それには大きく分けて二つの段階を踏むことが大切だ。

まず第一に、論文やレポートでは「自分の意見を『正しいもの』として主張する」ものだ  
ということを知る必要がある。これは、他者と対話するために必須の能力であり、高校ま  
での学習とは異なるものだ。

しかし、私たちは大学で求められているそれらと「似たもの」である調べ学習や小論文  
との違いを見誤りがちである。論文やレポートはまだ正解のない、賛否両論のある話題に  
対する自分なりの答えを書くものだ。そしてそれらには必ず、然るべきところから調べら  
れた根拠がある。しかし、私たちは「正解を探してくる」調べ学習や、「調べずその場で書  
く」小論文に慣れてしまっている。レポート・論文とはどのように書くべきかということ  
をしっかりと意識することが不可欠だ。

そして第二に、「正しい引用の方法を知ること」である。

引用には守らなければならない3つの決まりがある。

まずひとつは、引用元のソースはどこかという「出典明記」だ。引用元が書籍ならば著  
者名、Web ページであれば URL やページのタイトル、自分が引用した時のそのページの閲  
覧日時などを明記する。

ふたつめに、引用箇所を「」でくくって明示する「明瞭区分」がある。

最後に、文章全体での引用の割合を極力小さくする「主従関係」がある。

だが、時にはこれらの決まりを守ったつもりが、レポート・論文の大部分が引用になっ  
てしまうという事態に陥ることがある。

原因として、情報源をひとつしか見ないことがある。

これを解決するためには、多くの情報源を利用することが有効だ。そうすることにより、  
「論じるべきこと」がより明確になる。

また、その多くの情報源の中からその話題に対する**対局対極**の意見を比較検討すること  
も有効だ。ひとつの情報源しか見ないと、最初に見た意見の印象に引きずられたままの文  
章を書きがちである。だが、比較検討の根拠として「引用」を用い、自分の主張を打ち出  
すことでそのような状態になる心配はない。

引用とは、レポートや論文を書くときに絶対になくてはならないものだ。もし引用をし  
なければ、「自分の頭の中『だけ』で書く」ということになり、独りよがりの文章になって  
しまう。

その引用を正しく行うためには、多くの本を読み、より多くの情報を集めることが不可欠だ。レポート1つにつき1冊以上の本が目安であり、卒業論文には30冊から40冊分の本を読むことが必要になってくる。私たちは、常日頃から読書をするのが大切だ。

レポートや論文には、「何でもうまくいく魔法の一言」は存在しない。だから、私たちは今回の講義で学んだ方法をしっかりと身につけ、「まずやってみること」が大切なのである。

ちょっと箇条書き風ですが、内容は良くまとまっています。

今日の講義では大きく分けて五つのことを学んだ。

一つ目は、レポートや論文に使われる言い回しについてである。これらでは「～だと思う」や「～だと考える」などの言い回しはせず、そう思うことについての理由を言わなければならない。

また、疑問文にはきちんと自分なりの答えを書くようにする。

二つ目は、レポートや論文とはどういうものなのかについてである。これらでは自分の意見を正しいものとして主張する。

また、根拠のない思いつきや単なる感想は書いてはいけない。

さらにレポートや論文を書く能力は自分と異なる考えを持つ人と対話する為に必須の能力である。

加えて、高校までの学習とは異なるものであり、似たものと混合してはいけない。

三つ目は、今までの学生生活でしてきた調べ学習との違いについてである。

調べ学習は、調べ学習が自分の興味関心に基づいて調べ、報告し、正解を探してくるということに対して、論文やレポートは賛成意見反対意見共にある話題やまだ正解の見つかっていない問題をを芋づる式にしっかり調べるということである。

四つ目は小論文とレポートや論文の違いについてである。

小論文とレポートはしばしば似ているもしくはほぼ同じものと誤解される。しかし、小論文と論文やレポートは全く別物である。小論文は何も調べず、課題文を読み、その場で書くものであることに加えて、体験談+抽象的な一般的結論で構成されることが定型となっている。

それと異なり、論文やレポートといったものは、上述したように、根拠を調べた上で書き、自分の意見を正しいこととして主張するものであり、両者が異なることは一目瞭然である。

最後に五つ目はレポートや論文を書く上での引用とコピーについてである。

コピーというのはレポートや論文の中に引用した文章を引用であると示さないことである。引用する際には出所表示、明瞭区分性、主従関係に気をつけなければならない。出所表示の際に示さなければならない内容は Web ページ、本、論文それぞれで異なっているが共通

で示さなければならないものは、著者(製作者)、タイトルである。これらを示す意味というのは読者が出典を速やかに確認できるようにである。また、これらを書く際に大部分が引用になることを防ぐ為に、あえて、反対意見を探してみるということが大切である。その問題を解決するという目的で書くことが大事であり、自分の興味や関心で書かないようにする必要がある。

今日学んだことを生かし、これからのレポート・論文作成をしていきたい。

ちょっと箇条書き風ですが、内容は良くまとまっています。

4月20日の講義では、前回提出したレポートの振り返りをした。間違ったレポートの書き方で多かったパターンや具体的にダメだった点について学んだ。

高校まで慣れ親しんで書いてきた「作文」や「小論文」と、これから身に付けるべき「レポート」や「論文」の書き方は全く異なったものである。しかし、多くの学生は根拠のある文章の書き方に慣れていない。平成29年度の日本の大学・短大入学者数は686,168人となり、29年度高校卒業者の54.8%が現役進学している。(旺文社 教育情報センター「29年度 学校基本調査速報①」<http://eic.obunsha.co.jp/> 2018/4/22 アクセス)つまり、高校卒業生数全体の内半数以上が現役進学しているほど大学の存在が大きくなっていると言える。従来の主観的な文章の書き方を指導するだけでなく、**高校生の内から客観的な文章の書き方に慣れ**、大学でより論理的な文章が書けるように指導していくべきである。

コメント [y122]: これはトップページで、引用しているページの URL ではないようです。

コメント [y123]: コメント y49 を参照

第二回総合科学入門講座は引用とコピペの違いについての授業でした。出典明記や引用した箇所にかぎっこを用いること、主従関係がなければそれは引用ではなくコピペと判断されてしまうものだと分かりました。自分の意見はコピペというものは非常に罪深いものであり論文を書く上で一種の禁じ手のようなものであるということです。**なぜなら**授業をやっている最中に STAP 細胞で悪い意味で有名になった小保方さんのことを思い出し論文のコピペ疑惑により研究者から批判され干される形になった事実があったからです。

コメント [y124]: なぜコピペがいけないのかという理由を書くようにしましょう。「コピペをして干された人がいるから」というのでは、コピペがいけない理由になっていません。

今回の授業では、主に3つの事を学んだ。まず1つ目にレポートを書く上で「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」などという語句は避け、そう考えた理由や自分の答えを明確に示すこと。2つ目にレポートと「調べ学習」「小論文」の違いについて。そして3つ目にコピペと引用の違い、引用のやり方を学んだ。その中で私が特に大切だと考えたこと



は、レポートを書く上で「思い」がいるのか、そうでないのか、という点である。今まで私は文章を書く際、「思う」「考える」などを連発していた。それが自分の意見を示す方法だと考えていたからである。しかし授業では「思い」は動機にはなりうるが「正しさの根拠」にはなりえないと言っていた。確かに「思い」は単なる自分の主観でありただの感情であるから、自分の意見を「正しいもの」として主張するレポートや論文には不適切な表現だと納得した。これは自分の主張を相手に伝え、相手を納得させる上でも大切なことだと理解した。これからレポートや論文を書く機会が増えるので今回の授業で学んだことに留意してより論理的な文章を書けるように努力していきたい。

コメント [y125]: 決意表明型。

今回の授業では、レポートの書き方や小論文と論文・レポートの違い、引用とコピーの違いについて学んだ。レポートを書く際に、「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」という言葉を使うとどこか安心して投げやりな感じになるが、それらを使わずに根拠を示し、自分なりの解答をつくり、参考文献がレポートの多くを占めてはいけないということがわかった。また、小論文は、何も調べずにその場で書き、パターン化されているが、論文やレポートは、根拠を調べて書き、自分の意見を「正しいこと」として主張するものであるという違いに納得した。

私は、「賛成・反対の意見を主張するようなレポートを書くときに、賛成なのか反対なのかをどのように決めているのか」ということに疑問を抱いた。賛成の主張も反対の主張も探して、比較し、自分の意見を主張することは理解しているが、どちらの意見にも良い点と悪い点があり、悪い点においてはその解決策を述べるが、自分がどちら側なのかをどのような点で判断しているのだろうか。利益の数や大きさ、悪い点への解決策がどれだけ現実的なものか、悪い点がどれだけ悪影響を及ぼすのかを考察することによって、客観的な主張ができるはずだ。

コメント [y126]: 主語は何ですか？

あるいは、「どのようにして決めればよいのか」ということですか？

賛否の意見や情報を集めていくことで、どちらが妥当なのか、わかってきます。わかってくるまで調べましょう。

今回学んだことはスキ・キライは調べ、知り、考える良い「動機」にはなるが、「正しさの根拠」にはならないということだ。また正解は人それぞれ違って個人で正解を決めればよいということは間違っている。何も調べないでそのまま自分の意見を書くのが小論文で、根拠を調べ「正しいこと」として意見を主張するのが論文・レポートである。論文・レポートについては調べた情報の利用の仕方を考えることが重要になってくる。複数の情報から判断していい選択をすることもまた必要だ。

レポートを書くとき、「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」等の理由を**避ける書かずにごまかす**ような表現は使用してはいけない。思いは動機**にはなるがであり**、正しさの根拠にならないからだ。また、論文・レポートは小論文や調べ学習とは違うものである。論文・レポートは、自分の意見を「正しいもの」として主張するものであり、賛否両論のある話題やまだ正解のみつかっていない問題に対して、自分が決めた正解を書く。さらに、読者が出典を速やかに確認できるように出典を明記し、明瞭区分性のために引用箇所をカギカッコでくくって明示し、「引用」は問題解決のための手段であるので主従関係を意識して引用箇所は少なめにする。論文・レポートを書く際のポイントは、あえて反対意見を探すことである。社会的・学問的に論じるべき点は賛否両論の意見が対立している点であることから、両者を交えて、引用し、主張することが重要である。

私は前回のレポートで「考える」を3回も使ってしまった。自然と根拠を明記しない表現になるのは、自分に十分な「知恵」が備わっていないからである。相手に納得してもらえない論理的な主張ができるようになるため、毎日の講義や生活で少しでも興味を持ったら調べ、知識を体系化していくことが必要だ。

コピーと引用の違いについて学んだ。コピーはインターネット上や書籍からの情報を情報源を記述せずに載せること、または、出典は書いているが、すべてそのまま引用していることである。引用は出典を記入したもので、ホームページのURLを記載したり、書籍であれば著作名、著作者名を記入したものである。また、**出展出典**の表示をすることによって見た人もその本を読むことができる。

引用する際の注意点は情報源の載せ忘れをしないように気をつけることだ。レポートを書く上で、引用する機会はたくさんある。うまく、引用をしていきたい。

論文・レポートとは自分の意見を「正しいもの」として主張するものであり、他者と対話するために必須となる能力である。高校までの調べ学習では、調べてきたものを報告するのみだが、論文やレポートは賛否両論のある話題、まだ正解の見つかっていない問題から、より説得力のある自身が決めた「正解」を導かなければならない。小論文と論文の違いとしては、前者が何も調べないでその場で書くために決意表明型になりやすいのに対して、後者は、根拠を調べた上で書き、「正しいこと」として意見を主張する点である。

次に、論文を書くときに気を付けなければならないのが、引用なのかコピーなのかである。引用となる条件は3つあり、それらを満たさなかった場合コピーになってしまう。ま

ず第一に出典を明記すること(出所表示)である。ウェブページの場合、製作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時を明記する必要があり、製作者不明のときは引用してはならない。本・論文から引用する場合は、著者・タイトル・出版年・ページの明記を要し、それらに加えて、本は出版社を、論文は掲載誌名を書く必要がある。次に、引用箇所をかきかっこで括って明示することである。これは明瞭区分性といわれる。最後に、引用箇所は少しだけにすることだ。論文を書くときは自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用するのを忘れてはいけない。また、書いた論文の大部分が引用となってしまうように、あえて反対意見を探してみたり、同じテーマの本を複数読んで矛盾する点を考えたりすることも重要だ。そして反復練習を怠らないことが良い論文を書くための近道だ。

これから先、論文を書く機会がたくさんあるので、自分の「正解」を出して引用を適切に利用できるようにならなければならない。一つの情報源だけを見ては、論じるべきことが見えてこないため、主従関係をよく考えて書くことが大切である。

論文・レポートとは、自分の意見を「正しいもの」として主張するものである。この主張を説得力のあるものにするには、調べた情報を上手く利用しなければならない。引用するときは、読者が出典を速やかに確認できるように「出所表示」をすること、引用箇所を明らかにすること(明瞭区分性)、自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用するという「主従関係」を意識することが重要となってくる。また、情報を多方面から集め賛否両論が対立している点、つまり社会的・学問的に論じるべき点を発見し、その「問題」を解決するという目的で書くことが重要である。これらの点を意識し反復練習することで論文・レポートを仕上げていく。

大学での論文・レポートは、高校までの小論文とはまったくの別物であると考えべきである。なぜならば、「小論文は主観的な自分の頭の中を人に伝えるために書くものですが、学術論文は客観的な事実の積み上げを紹介するために書くもの」(名古屋大学レオロジー物理工学研究グループ「小論文と論文」より 4月22日)であり、圧倒的に論文にはたくさんの情報が必要だからだ。自分の主張を確立させるためには、一つの情報だけでなく対立する情報も収集し問いを深めていくことが重要である。

私にとって最も不安を解消し、論文を書くためになった本日の講義内容は、以下の通りである。

まずは、個人的な興味を出発点として、調べ、調べ、調べ、知識を蓄える体系化することである。学問的興味が持てない私は、知識がないためにそうであったことに気づき、知

コメント [y127]: コメント y79 を参照。

識のなさから納得できた。

また、**学問的**興味は学問的矛盾・関係性といったところに生じるようだ。

さらに、私の考えつかないだろうと悩みであった「論じるべきこと」としては、社会的・学問的に論じるべき点であり、異なる著者の意見を多く取り入れて、矛盾を発見することによって解決できるようだ。早速、自分の興味だけで(意見も持たないままに)、本を読み始めるが必要になっているという解釈で**よろしい**だろうか。

そして、検討するときの根拠として引用を用いる。

しかしここで、主観的なものを客観的なもので裏付けると、主観的なものが打ち消されてしまうだろう。そうして引用でできた論文となってしまうのではないかと疑問に**不安に思っている**。

コメント [y128]: よろしいです。

コメント [y129]: 杞憂せず、練習しましょう。

学問的な興味関心とは、学問の知識体系の欠けた部分から求められる問いのことである。また、杞憂する人が多いが、どのような場合でも、しっかり学び、しっかり知識を身につけることが重要である。自分が納得するまで調べ、文章を書き、それが訂正されたなら更に調べ上げ、また書くという繰り返しが必要となる。

また、知識を体系化することで知恵となるが、知識の体系化と知識の活用は別物である。そして実際に、自分が知恵を身につけないと、知恵がある人となない人というのは見分けがつかない。もっと言えば、「知恵がある」とはどんな状態か具体的に分からないかもしれない。

「思い」も必要ではないかという人もいるが、好き嫌いに関わる「思い」は「動機」には成り得ても、「正しさの根拠」には成り得ない。

そして、今回最も重要なことが、「コピペ」と「引用」の違いについてである。そもそも、論文やレポートは自分の意見を「正しいもの」として主張するもので、感想等は不要である。客観的に正しいものとして主張しなければならないため、十分に調べ抜いてから、自分が決めた「正解」を書くようにすべきである。また、小論文との混同にも注意が必要である。

では、コピペと引用の違いは何か。コピペは引用であることを示していないものである。それに対し、引用は、出所表示や、引用箇所をカギかっこでくくるなどの明瞭区分性が必要で、自分の問題意識を解決するという目的で利用するという主従関係に気を付けなければならない。

また、大部分が引用にならないためには、複数の情報源を見る必要がある。特にポイントとして、あえて反対意見を探すべきである。

そして、文章を書く上で最も大切なことは、反復練習である。何でもうまくいくちよつとした一言などなく、杞憂などをする前にまずやることが重要である。

小論文では、一般的な結論で終結することが多く、たくさんの人が似たようなことを書く。しかし、論文やレポートというのは自分にとって「正しいこと」として意見を主張するものだと知り、書き手によって結論が異なるだろう。引用元を示すか示さないかで、コピペか引用か二分されるということは今回の授業で初めて知った。私は引用元を明示する必要について、非常に頷けた。出所表示を明確に示さなければ、読み手が確認することができない。つまり、情報の真偽を確かめることができないからである。

また、主従関係というのも初めて知った。引用というのは、あくまで自分の問題意識を解決する手段にすぎないのである。自分が正しいと思うことを主張しなければならないのに、引用ばかりでは主従関係が逆になってしまうからである。

授業の内容についてよくまとまっています。

授業の流れとして、まず前回の授業コメントの書き方について間違っているところ、直すべきところの紹介と意見についての返答、それから教科書の『「コピペ」と言われないレポートの書き方教室』を参考にしながらのレポートの書き方の説明がされた。

レポートを書く上で大事なこととして、「調べ学習」や「小論文」との違い、引用とコピペの違いを紹介された。「調べ学習」は調べてきたことを報告することであり、「小論文」はその利用の仕方に違いがあるということ。引用は「自分の問題意識を解決するという目的で情報を利用する」という点でコピペと違うということと説明された。さらに、情報を引用するにあたって「出所情報」など必要な事項の書き方、なぜコピペをしてしまうか、正しい結論の書き方の説明を受けた。

授業の内容を聞いていてふと思ったのが「作文」、「小論文」、「レポート」、「論文」、「調べ学習」、この授業の「コメント」の違いである。気になって辞書やインターネット等を使って調べたところ、「作文」とは、「(何かの課題で)文章を作ること。また、その文章。(体裁を整えただけで、本来記述されていなければならない事柄が書かれていない文章の意にも用いられる。)(『新明解国語辞典』)。「小論文」とは、「(試験科目として課す、短い論文)(『大辞林』)、「レポート」とは、「(研究・調査の)報告書。学術研究報告書。(『大辞林』)、「論文」とは、「(ある事柄、特に学術的な研究の結果などを筋道を立てて述べた文章。)(『明鏡国語辞典』)、「調べ学習」は、「(生徒が課題について、図書館を利用したり、聞き取り調査をしたりして結果をまとめること。総合学習の一形態。)(『デジタル大辞泉』)、「コメント」は、「(ある問題・事件などについて、意見や見解を述べること。また、論評。解説。)(『明鏡国語辞典』)ということだった。

これらからわかったのは、「作文」とは実際何も書かれていない文字の羅列であり、「レポート」、「論文」、「調べ学習」は何か研究・調査したことについての報告書である点は同じだが、「レポート」はその調査を元にした意見が付随すること、「論文」はそのレポート

コメント [y130]: コメント y1 を参照。

コメント [y131]: なぜそういうことになるのですか？

の総括で「大レポート」のようなもの、「調べ学習」はただの調査結果であるということ、さらに、「小論文」はいかにも論文の「小」な扱いだが、その中心には意見があり、調査した報告書としての要素は薄い。そして、「コメント」はやや柔らかい言い方だが、ほぼ小論文と内容としては変わらないということである。

さて、私たちは小中高と「調べ学習」は散々やらされてきたのでどうやらある事物を調べて整理する能力については問題ないようだ。ここから「レポート」、「論文」にしていくためにはその結果から色々と考察し、意見を述べる必要がある。自分の意見を持って発信していくことは慣れないことだが、私たちはこの能力を身につけていく必要がある。そのためにもっと「なぜそのように考えるのか」と日々疑問をもって学習すること、さらに、授業やフリースペースでの他人とのディスカッションの場を増やして、自分の意見を錬成する環境を増やしていくべきなのではないだろうか。大学ではもちろんのこと中等、高等教育の場でもどんどん取り入れていくべきだろう。座学による受け身的な授業形態から脱却していくべきである。

今回の授業では、「コピペ」と「引用」の違いについて学んだ。

まず、論文・レポートとは根拠のない思いつきや感想ではなく自分の意見を「正しいもの」として主張することで、そのためには調べて根拠や理由を示すことが必要である。また、論文やレポートは賛否両論ある話題や、まだ正解が見つかっていない問題を調べ、自分が出した「正解」を書くことが目的である。

「引用」と「コピペ」の違いは、「コピペ」は引用であることを示さないのに対して、「引用」は次の3つのことに注意しなければならない。

1つ目は、出典明記という「出所表示」。2つ目は、引用箇所をカギかっこでくくって明示する「明瞭区分性」。3つ目は、引用箇所は少しにするという「主従関係」である。また、自分の問題意識が主なので自分の問題解決のために引用を少しだけ利用するのが良い。

私も論文やレポートでコピペをするのは反対だ。いくら自分と意見が一緒でも他人の書いたものをそのまま切り取り、勝手に自分のもののように使うのはいけない。なぜなら、自分の意見ならたとえ同じような考えでも、自分の言葉で書く方が自分の考えをそのまま表現でき、他の人に分かってもらえるからだ。そして、大切なことは、自分の考えを「正しいこと」と自信を持って主張できるように調べ尽くすことと、その反復練習である。

今回の講義はレポートの作り方ということで、しっかりとした自分の答えを用意してこないといけないということが印象深かったです。そしてただ自分勝手な思いを描くのでは

なく正しい引用を基にした主張をしなければならないなど多くの決まりがあるということも学びました。

そんなルールの多いレポートの引用は一々文献が出てくる度に出すべきでしょうか?最後にまとめて出すというやり方でもいいのでしょうか?どうでもいいような質問で大変恐縮なのですがこの差は今後のレポートづくりの効率に影響してきます。一々付けるよりも最後にまとめてしまう方が効率がいいはずです。やってもいいのでしょうか?

コメント [y132]: 教科書『コピペと言われないレポート』35 ページを参照。

私が今回の授業で学んだことは、コピペと引用の違い、小論文と論文やレポートとの違いの二点である。コピペは出典を明記しない、引用箇所を「」で明示しないなど、文章が引用であることを示していない物のことを指すが、引用では出所表示や明瞭区分性に加え、自分の問題意識を解決するために少しか引用を用いるという、主従関係を持っている物である。また、論文は小論文とは異なり、根拠を調べ、まだ正解の見つかっていない問題の答えを「正しいこと」として主張するものである。

「思う」「感じる」「考える」「印象を持った」は書かない。

自分の「思い」ではなく、「主張」を示す。その際、必ず根拠や理由を述べる。

自分が現在持っている興味や関心は「個人的なもの」になってしまう。学問的な興味関心とは、学問の知識体系が求める問いである。

総合科学入門の授業で扱う「意見」とは、「正しいものとして主張するもの」である。

個人の「思い」は調べる、知る、考えるの「動機」にはなるが、「正しさの根拠」にはならない。

引用とコピペの違い。

コピペとは、他の資料や文献の内容を用いても、その出典を示していないもの。

引用とは、1 出典を明記している 2 引用箇所を「」でくくっている 3 少しか引用している。この 3 点が必須である。引用したものをあたかも自分の主張のように示すのではなく、あくまで自分の問題意識を解決するために引用を利用する。

レポートの大部分が「引用」にならないために、情報をたくさん集める。あえて、反対意見を探してみる。賛否両論が対立している点は、社会的・学問的に論じるべき点である。とにかく杞憂するのではなく、反復練習をすること。

最初は慣れないと難しいかもしれないが、より説得力のあるレポートを書くために守るべきルールに則って書かなければならない。

箇条書き風です。文章の形で書きましょう。



今回の授業は、コメントの書き方についての注意と、引用とコピペの違いや、引用の仕方について学んだ。

誰もが納得する解答は、自分が納得するまで調べないと分からないことが改めてわかった。

そして、論文・レポートに関しては、自分の意見を「正しいもの」として主張する、つまり、自分の意見を正しいと思わせるには柱となる根拠が必要だ。その上、論文・レポートは正解が見つかってない問題の場合があり、自分がこれだと決めた正解を書かなければならない。

コピペ・引用の違いについては、変わりなく見えるが、引用は出所表示、明瞭区分性、主従関係を示さなければならない。授業では、論文やレポートの大部分が、「引用」になってしまうのか、という疑問があり、その答えに「情報源を一つしか見ないから。」とあり、視野を広くするために情報源をより多く探したい。

コメント [y133]: 決意表明型。

今回の講義では、大学で書くことになるレポートと高校で書いてきた小論文の違いを比べてレポートとは何かということと、引用に関するルールについて学んだ。前者は、小論文は何も調べずに、自分の体験談を記述し、最後に抽象的・一般的な結論を記述するのに対し、レポートは調べて自分の意見の根拠を探し、書き、自分の意見を正しいものとして記述していくことだということを学んだ。後者では、引用する際には、出典の明記、引用箇所を鍵括弧でくくる、そして、引用は自分の意見を裏付けるものとして使う必要があるということも学んだ。

さて、ここから質問に入る。「私などでも本を一冊書くためには 10 年ぐらい勉強して、執筆に 2~3 年はかけます」(山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』新曜社、2013 年、37 ページ-山口裕之)という風に書いてあるようにレポートを書くためには本を読まなければいけない。山口先生は同書籍の中でも、「本は買った方が良い」とおっしゃっておられる。

しかし、私は小説ばかり読んできたため、学問を学ぶ上での本の読み方について知らない。そのため、このままでは、レポートを書くために読まなければならない本を小説と同じ感覚で読むのではないかと心配している。学問を学ぶ上での本の読み方とはどのようなものか、本を読む上で留意しなければならない点はなんなのか。ご回答を願う。

コメント [y134]: 読み方は同じで結構です。選び方に気を付けましょう。まずは新書などでその分野の概要を知り、その分野における基本的な文献を知ります。次には、その基本的な文献を読み進めます。

#### 授業内容の要点

- ・小論文は何も調べずにその場で書く。一方で論文・レポートは根拠を調べたうえで書く。つまり、調べた情報の利用の仕方が異なる。
- ・コピペは引用を示さないが、引用は出所表示、明瞭区分性、主従関係をきちんと示す。
- ・コピペ<<<<<引用
- ・の情報源を確認し、反対意見・反対事例を探し、論じるべきことを見つけることを意識する。

#### この授業を受けて

授業でも言った通り、様々な情報を調べ、吟味して取捨選択すべきである。

なぜなら、ひとつの情報だけに縛ってしまうと多角的に物事をとらえにくくなるのでたくさん情報に触れることによって自分が論ずべきことを決めていくべきだからだ。

箇条書きはやめましょう。

出所表示、明瞭区分性、主従関係に留意することで、コピペではない正しい引用を行うことができる。大部分が引用になってしまう、引用部分とそうでない部分の主従が逆転してしまうのは、情報源を一つしか見ないためである。賛否両論で対立している点について考察し、反対者の意見を取り入れることが重要である。こういった能力は一朝一夕に身につくものではないため、少しずつ研鑽していかねばならない。

小中高と大量の感想文を書くことは、論理的な主張が求められる社会において弊害にしかない。独りよがりな感想文に慣れては客観的な主張は書けないし、そもそもネット上などに作文の見本が増え、大人が喜ぶ文章を書く作業になっている。また、調べ学習も、週に数時間の授業で発表をさせるのはあまりに時間が少なく、深い考察に基づいて意見を述べることは難しい。夏休みのような長期休暇を利用し、意見の発表までより多く時間をかけられるようにするべきだ。

「思う」などの言葉は使わずに理由づけをしてきちんと自分の答えを書く。しっかり調べ、しっかり知識を身につけ活用することは大事だが、それと「知識の体系化」は別。根拠のない思いつきや単なる感想はいらない。論文とは根拠を調べた上で「正しいこと」として意見を主張すること。引用とは出典を明記する(出所明示)、引用箇所をカギカッコで明示する(明瞭区分性)、引用箇所は少しだけ(主従関係)。大部分が引用にならないようにする

コメント [y135]: 豊かな感性をはぐくむことも必要ではあります。

ために情報源を一つに絞らない。結局大切なことは、反復練習が必要。

意見:ネットから情報を得る時にいつも一つのサイトに**偏重固執**してばかりだけで、これからはいろいろなサイトを活用しようと**思った**けど、もし**どのサイトも虚構な場合**どうすれば良いのだろうと**思った**。

コメント [y136]: 杞憂せず練習しましょう。

論文・レポートとは、高校までの正解を探し報告する調べ学習や、何も調べないで書く小論文と違い、賛否両論があったり正解の見つかっていない問題について、自分の意見を「正しいもの」として主張するものだ。引用とは、引用であることを示さず、主従関係ができていないコピペと違い、出典を表記し(出所表示)、引用箇所をカギかっこでくくって表示し(明瞭区分性)、自分の問題意識を解決するために利用する(主従関係)ものだ。出所表示は、ウェブページの場合は、制作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時、本の場合は、著者・タイトル・出版社・出版年・ページ、論文の場合は、著者・タイトル・掲載雑誌名・出版年・ページを示し、読者が出典を速やかに確認できるようにする。論文・レポートの大部分が引用にならないように、賛否両論が対立しているような、「論じるべきこと」を発見し、自分と反対の意見など様々な情報を探し、その問題を解決するという目的で書く。結論は、読者に委ねたり、非現実的だったり、具体性に欠けるものにならないようにする。論文・レポートをちゃんと書けるようになるには、とにかく反復練習を行う。

この講義を聴いて、自分が高校時代、原子力発電の賛否について調べたとき、「多くのデータを検証し、様々な人の立場になって考えていかなければならない。」というような結論を書いたのを思い出した。大学では、このような曖昧な結論ではなく、しっかりと自分の主張を打ち出した論文・レポートを書けるようになるため、この講義にならって、反復練習して**いきたい**。

コメント [y137]: 決意表明型。

今回の授業では、小論文と論文・レポートは全く違うものであることが分かった。小論文は、入試などの試験で何も調べないでその場で書いたり、「体験談+一般論・抽象的」に書くものであるが、論文・レポートは根拠を調べた上で書いたり、「正しいこと」として意見を主張するものである。そのため、論文・レポートでは客観的な根拠として引用文が重要になってくるが、どこが引用した部分かをはっきり示さなければならない。また、出典を明記し、引用箇所は少しだけにしなければならない。そうすることで、論理的な文章を書くことができる。しかし、情報源を一つしか見ないと、文章の大部分が引用になってしまうため、あえて反対意見を探すことで回避できることも分かった。だから、私は一つの固定観念に縛られないように、大学生活の3年間で著者が違う本を**30冊**読むことを目標に

コメント [y138]: 目標としてはいささか少ないですね。「100冊」ぐらいにはいかが。

し、社会的・学問的に論じるべき話題について根拠が明確な論文が書けるようになりたい。

今回の授業をまとめると、このようなことである。論文やレポートは、賛否両論のある話題や、まだ正解の見つかっていない問題について、自分の意見を「正解」として主張するものである。自分の書いた論文をコピペと言われない為には、利用した引用の出所表示、明瞭区分性、主従関係を明白にする必要がある。これは、論文の読者が出典を速やかに確認できるようにである。だがここで、論文の大部分が引用になってしまうと、ただ調べたことの報告になってしまい、論文として意味がない。論文を書く際に、複数の情報源を確認し、反対意見や反対の事例を探し、そこから論じるべきことを見つけることで、それを防ぐことができる、ということである。今回の授業はとてもためになったので、質問はない。自分が論文を書くにおいて、この授業で習った正しい論文の書き方を実行すれば良いのだ。

今回はレポートを書くときの正しい引用の仕方を学びました。引用における大切な点は、出所と引用箇所を明記すること、自分のレポートと引用箇所の主従関係をはっきりさせること、引用箇所の長さに気をつけることです。引用箇所が長くなってしまふ原因は、情報源を1つしか見ないから、ということでした。

高校までの調べ学習と根本的に違うところは、レポートを書くときは、**文章化する前に**自分の主張を自分でじっくり吟味しないといけないということです。先週の話であった知識の体系がまだできていない私には難しいことかもしれませんが、ひとつひとつ解説を聞いていくにつれて、順序立ててやれば形だけならできそうであることに気づいた。それを意識して、だんだんよいレポートが書けるように**していきたい**。

コメント [y139]: 書く前に考えるのではなく、何度も書いて書き直す作業をしてください。

コメント [y140]: 決意表明型。

今回の総合科学入門講座はレポートの書き方、特にコピペと引用についての話だった。本やウェブページの内容から引用したということを示さないコピペをすることなく、引用した内容には出所表示を行い、引用箇所にはカギカッコをつけて明瞭区分性を持たせ、尚且つ自らの主張と引用部分の主従関係が逆転しないように引用箇所は少しだけにすべきだ、とのことであった。出所表示と明瞭区分性に関しては高校の時に教わっており、またコピペせずきちんと引用することを心がけていれば簡単に守れる原則であるが、**今回の講義で初めて知った**主張と引用の主従関係については、**今回の講義で初めて知った**。大部分

が引用となる原因について講義では利用する情報源の少なさが挙げられていたが、問題に対する自らの考えの弱さや問題意識の不明確さも主従関係を逆転させ得る要因なのではないか。レポートなどを作成するにあたって自分の主張が弱かったり問題意識が不明確であったりすると上質なものは作れない。だから質を向上させようと自らの主張に説得力を持たせようとするが自分の力では出来ず、本やウェブを通して得た他者の知恵に頼る。その結果引用が増えてしまい、自分の主張と引用との主従関係に逆転が生じてしまう恐れがあるからだ。そうならないためにも、まずは問題を解決させられるだけの主張を構築していくことが重要だ。そうすることで情報を引用にあたっての三つの作法に則った、良い引用が出来るだろう。

コメント [y141]: 問いに対する答え、その根拠を明示しましょう。

コメント [y142]: 「問う価値のある問を捉える」ためには、複数の文献を読むことが必要です。

今回の授業では、レポートの書き方について学んだ。レポートには使ってはいけない言葉があり、「思った」「考えた」などである。その言葉を使うのではなく、理由を述べるべきであるということ。他には、レポートと小論文や調べ学習との違いを比較して学んだ。小論文とレポートの違いは、前者はその場で書くものであり、体験から抽象に結びつけ一般論的な結論を出すことが多いが、後者は根拠を調べた上で書き、正しいこととして意見を主張するなどがある。調べ学習とレポートの違いは、前者は調べたことを書き正解を書くが、後者はまだ正解のない賛否のある話題を自分が根拠をもとに考えた決めた正解を書く。他にも、引用の方法や、コピペと区別の仕方も学んだ。

レポートを書く上で「思った」や「感じた」などの言葉を使ってはいけないというのは、高校まで学んできたこととは違うかったので意外だった。感想文とレポートを区別させる部分である。制約となり始めは難しいだろうが徐々に慣れていきたい。

コメント [y143]: 決意表明型。

コピペとは引用することを示さないことである。引用する際の注意点は出典を明記すること、引用箇所をカギカッコ(「」)でくくること、引用箇所は少しだけにすること、自分の問題意識を解決するという目的で引用を利用することである。ウェブページから引用する場合は、制作者、ページのタイトル、URL、閲覧日時を明記しなければならない。本から引用する場合は、著者、タイトル、出版社、出版年、ページを明記しなければならない。論文から引用する場合は、著者、タイトル、掲載誌名、出版年、ページを明記しなければならない。

私は今回の講義でこのようなことを習うまで、引用先で明記すべきことが違うということを知らなかった。レポートなどがコピペだけになってしまわないようにある事に対して賛成反対の両方の立場で考えて自分なりの考えを深めていきたい。また、ウェブページ

などを鵜呑みにしてはいけないと感じた。制作者が匿名になっている場合が多いということは確実性はないということだ。あくまで参考程度にして、そこから自分がどのような考えを持ったかを大切にしていきたい。

コメント [y144]: 決意表明型。

この講義を通して、「思う」と「考える」は同義であり、また、論文やレポートの課題には明確な正解が存在せず、高校までの生活で学んだこととは全く異なるということが分かった。それに加えて、情報源を一つしか見ないことで大部分が「引用」になってしまっている現状は、あえて反対意見を探すことで解決できる場合も多いということも分かった。私は大学入試における「小論文」において、なぜ「論文」と区別した試験を課すのかに疑問を持った。区別しない方が、大学に進学したときに戸惑うことが少なくなり、効果的に論理的な思考能力を身に付けることができる。

コメント [y145]: 具体的にどこがどう異なるのか書いてください。

コメント [y146]: 論文はその場で書けないからでしょう。

重要なのは、コピペと引用では、引用の方が、将来社会人となる大学生の私達に必要なということだ。なぜなら、コピペは1つの情報に納得したら完了するが、引用はコピペの倍以上の情報を集めるため、調べ考えが枝分かれしていく時、あらゆる角度から探し出した自分の考えの正当性を主張するための根拠を論理的にまとめる力が身につくからだ。

今回の授業では、本や論文、インターネットから引用する場合、記載する必要があるものは何であるかを学んだ。また、特にインターネットから引用する場合はページの製作者や閲覧日時を示す必要があり、これは私自身知らなかったことであったため、ためになった。考えてみるとWebを閲覧する際に製作者を気にしたり、このページが近いうちに更新されるかもしれないなどと予想したりすることは無いに等しい。しかし、前回の授業で学んだ論理的思考力の養成と物事の多面的理解には、調べ、知り、書くことにおける調べる文献や情報に正確さが要求されるはずであるからやはり今後Webから引用する時は大部分を引用しないように、また出所表示を正確に行うようにする。

今回の授業では、論文とレポートのコピペと引用の違いについて学んだ。引用をする際

には、出所表示、明瞭区分性、主従関係を示さなければならないのだと理解した。また、小論文と論文・レポートの違いについても学んだ。私は小論文と論文・レポートは名前が似ているため、同じものであると思っていた。だが、小論文は体験談を用いて、結論を導き出すのに対し、論文・レポートは根拠を調べたうえで、正しいこととして、自分の意見を主張するのである。

① 私が今回の講座で学習したことは、3点あり、まず、論文・レポートでは思考系の動詞の利用は主張の根拠が不明瞭になるので、厳禁だということだ。

次に、小論文と論文・レポートの違いである。両者の相違点を具体的に言うと、前者は即興で、テーマに沿って自分の思っていることを述べ、一般的な結論を導くものであり、後者は事前に複数の観点から調べていたものを利用して、テーマに対する独自の主張を肯定的に述べるものである点だと言える。そして、大学では後者の書く力を求められているということも同時に学んだ。

最後に引用とコピペの違いと、引用の作法である。ここでは特に、引用の作法の方が勉強になった。ここで私は、引用は自分の問題解決のためにあるものなので、引用した部分を自分の主張に当てはめるだけでは駄目だということも学んだ。

② 引用についての説明のところで、「該当箇所を“少しだけ”引用せよ。」と先生は仰っていたが、この説明は不適切だと主張する。

③ 何故ならば、解釈によっては、②は論文の完成度を低下させる考えにつながるからだ。

どういうことかという、そもそも論文とは「議論する文であり、理義をきわめる文」である。では、議論し、理義をきわめることのできる論文に必要なものは何か。その答えの一つに「論理的で客観的な文章を書くこと」というものがある。それならば、引用は読者が論理的にその内容を理解できる必要がある。だから、例えたとえ（あえて漢字で書くと「仮令」）引用文が長くとも読者が、論文を読む際に論理的に納得できることが大切にされるべきだ。実際のところ、先生がこのように仰ったのは「引用は短いほうが好ましい」といったことだということも容易に理解できる。しかし、他方で引用文を短くすることに重きを置き過ぎ、結果、論文の整合性を欠き、完成度を低下させてしまう本末転倒な事態になりかねない危険性をこの文は孕んでいる。よって以上のように意見した。

コメント [y147]: 違います。「論文全体の中で引用が小部分となるようにせよ（主従関係）」と言いました。これが守られない場合、「コピペ」となります。

レポートを書く時は、自分が決めた主張を論じる。情報源を広く見る。引用する場合は出所表示をする。杞憂せず、まずは何事にもやってみることが大切である。私が第1回のコメントに書いた何事にも挑戦することが大切であるということが今回の授業で出てきて



同じ意見だった!そして、レポートはこれから書くことは多くなるが、ただやみくもに自分で正解を出すだけではなく沢山の情報をもとに正解を出すことが必要だ。そうでないと自分の考え止まりになるからだ。

意見には必ず理由や根拠が必要である。質問なら、どのように答えてほしいのかわかるよう具体的に書く必要がある。論文やレポートは客観的事実をもとに、確からしい答えを示すものである。その際、データの出所を明確にしなければならない。また、どの部分が他の書籍や論文から持ってきたものなのかも明確にする必要がある。

最初の数回は内容に関わらず、授業コメントを提出したら点数がもらえると聞いた。であれば、今回は無理に意見や質問も考えなくても良いのではないだろうか。今後レポートや論文を書くための練習として今回も取り組むべきではあるのだろう。しかし、これから先、いやというほどレポートを書かなくてはならないし、その過程で必然的にその能力は身につくはずだ。なので、今回のところはこれで授業コメントを早々に終わりにして、他の授業のレポートを充実させるために時間を使うことにする。

今回の授業の要点は小論文・調べ学習とレポート・論文の違いについてと引用とコピペの違いについてであった。引用を練習する。

#### アメリカのシリア攻撃について

4月7日にアメリカ・イギリス・フランスがシリアに攻撃した。

「トランプ大統領だいつりょうは演説えんげつで『化学兵器かがくへいきの製造せいぞろいと拡散かくさん、使用しようを抑おさえる行動こうどうだ』と訴うたえ」(毎日小学生新聞 <https://mainichi.jp/articles/20180416/kei/00s/00s/002000c> 国際 アメリカ・イギリス・フランス シリアを攻撃 ターゲットは「化学兵器施設」 4月22日)

「トランプ氏は、12日の国家安全保障会議(NSC)を受けて攻撃を決断すると見られていた。だが米メディアによると、マティス国防長官は早急で大規模な攻撃に反対。判断が先送りになっていたという」イギリスのメイ首相しゅしょうは『軍事的手段ぐんじてきしゅだんのほかに選択肢せんたくしはなかった』と述のべ(朝日新聞デジタル ワシントン=杉山正 <https://mainichi.jp/articles/20180416/kei/00s/00s/002000c> シリア攻撃に踏み切った米欧 ロシアと偶発的衝突も危惧 4月22日)

ロシア側は「今回の攻撃は安保理決議などで認められないまま行われたため、『国際法と国連憲章に違反している』として3か国を非難」している。

アサド側は「化学兵器を使ったのはテロリストだ」と主張している。

化学兵器を使うことは人道的にいけなけれども、化学兵器の開発所を破壊したとしても化学兵器を使わなければならなくなった原因を解決しているわけではないため、再び化学兵器の被害にあう人がでるはずである。さらに国際法を大国が無視してしまうことでほ

コメント [y148]: 自己流でやるのではなく、教科書『コピペと言われないレポート』をよく読んで、正しい形式で行うようにしましょう。

コメント [y149]: まず、なぜこのテーマを取り上げるのかという理由を示さなくてはなりません。

コメント [y150]: ふつう、「小学生新聞」は引用元として不適切です。毎日新聞の方を引用しましょう。

かの国も同じように国際法を破って軍事行動を起こすかもしれない。そのためシリアに攻撃を仕掛けるのは反対だ。

#### 参考文献

- ・ <https://www.asahi.com/articles/ASL4B5589L4BUHBI01P.html> シリア攻撃に踏み切った 4月22日  
米欧 ロシアと偶発的衝突も危惧
- ・ モスクワ=喜田尚 <https://www.asahi.com/articles/ASL4G44F9L4GUHBI024.html> 月22日
- ・ <https://www.asahi.com/articles/ASL4J2C9LL4JUHBI00B.html> アラブ連盟「完全な非難」シリアの化学兵器疑惑で ダンマン近郊=高野裕介、渡辺丘 4月22日
- ・ 高橋友佳理 <https://www.asahi.com/articles/ASL4G54F0L4GUTIL021.html> シリア逃れた「戦場のピアニスト」米軍攻撃に憂い 4月22日
- ・ 毎日新聞 <https://mainichi.jp/articles/20180420/k00/00e/030/195000cOPCW> 化学兵器の調査難航 米「シリア政府が妨害」 4月22日
- ・ 毎日新聞 <https://mainichi.jp/articles/20180422/k00/00m/030/130000c> シリア大統領 フランスの勲章返還 仏政府が剥奪手続き中 4月22日
- ・ (毎日小学生新聞 <https://mainichi.jp/articles/20180416/kei/00s/00s/002000c> 国際 アメリカ・イギリス・フランス シリアを攻撃 ターゲットは「化学兵器施設 4月22日」 4月22日
- ・ <https://mainichi.jp/articles/20180410/k00/00e/030/196000c> シリア「口から泡吹き死んだ」化学兵器疑惑、住民ら証言 4月22日
- ・ SANA 4月22日

参考資料のところは引用したところだけでなく、**参照参考**に**した**だけのものも書くほうがいいのだろうか?引用**じゃした**ものでなくても**参考にした文献**なら**本の最後**に書いてあるので書いたほうがいいと**考える**。

今回の講義では主にレポートや論文作成の際重要になってくる、「コピー」と「引用」の違いを学んだ。

そもそも論文・レポートとは根拠のない意見とは違い、客観的根拠に基づいて自分の意見を「正しいもの」として主張する文章のことである。また、その場で読んだ課題文に対して、その他の資料を調べることなしに自分の意見を述べる小論文とも異なるものだ。

そして引用とコピーの違いは、コピーは引用であることを示さないが、「引用」は出所表示をする・引用箇所を明示する・あまりにも多く引用しすぎないことなどである。さらに、忘れてはならないのは、あくまで「引用」は自分の問題を解決・検討するための根拠とし

**コメント [y151]:** 文献表の作り方については教科書『コピーと言われないレポート』34~40ページをよく読んでください。

**コメント [y152]:** 「参考にする」とは、具体的にどうすることでしょうか?その本に書かれていたアイデアを論文中に利用するのであれば、黙って「参考にする」のではなく、きちんと引用し、出典を示すべきです。

**コメント [y153]:** どの本の最後ですか?

て用いるものであるということだ。

前回と今回の講義に共通して重要な点は、資料や文献を蓄積して知識を体系化させ、そうすることで初めてその体系化された知識を活用できるということだ。知識を体系化させることなしに知識の「正しい」活用はできないと、何回も繰り返し講義中に触れられた話題なのでそう判断した。

論文・レポートとは、自分の意見を「正しいもの」として主張することであり、根拠のない思いつきや、単なる感想を書くものではない。高校までの「調べ学習」との違いは、「調べ学習」が、調べたことを報告し、「正解」を探してくるのに対し、「論文やレポート」は、賛否両論のある問題や、まだ正解の見つかっていない問題について、自分が決めた「正解」についてを書くことである。次に、引用とコピペの違いは、「コピペ」は、引用であることを示さないのに対し、引用は、1 出典を明記する。(出所表示)<sup>2</sup> 引用箇所をカギかっこでくくって明示する。(明瞭区分性)<sup>3</sup> 引用箇所は少しだけ。自分の問題意識を解決するという目的で引用する。(主従関係)また、出所表示に示すべき情報は、ウェブページの場合は、制作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時、本の場合は、著者・タイトル・出版社・出版年・ページ、論文の場合も、著者・タイトル・掲載誌名・出版年・ページである。これは、読者が出典を速やかに確認できるようにするためである。

今回の授業の要点は、小論文は何も調べないでその場で書くものだが、論文やレポートといったものは根拠を調べた上で書くものであり、正しいこととして意見を主張するものであるということだ。また、コピペとは引用であることを示さないものだが、引用とは出典を明記して該当箇所を明示し一部分だけに留めるものであるということだ。

これらのことから分かるように、コピペで論文やレポートは断じて作成してはならない。数年前から有名大学でもコピペでの論文作成が横行しており、単位剥奪や停学処分、更には退学処分にまで及ぶ事例もある。またコピペは著作権法にも違反しており、発覚すると刑事罰の対象となる。このように、コピペは様々な危険を孕んでいるからだ。

コメント [y154]: コメント y121 を参照。

論文・レポートは根拠のない思いつきや単なる感想を書くものではなく、自分の意見を正しいものとして主張する為にその意見の根拠となるものを予め調べて書くものだ。

また論文やレポートを書く際に気を付けなければならない事として、引用箇所を示す、

言葉遣い、結論の書き方などがある。

特にコピペには気を付けなければならない。無意識のうちに**どぶみ自分**の書いたものがコピペになっているかもしれないからだ。そうならないために注意する点は、1 出典を明記する、2 引用箇所をかぎかっこで明示する、3 引用はしすぎない、の3つである。1と2は自分の文章がコピペでないことを示すものでもあるが、読者が引用箇所の出典をすばやく確認できる為の工夫でもある。3は情報源を一つしか見ないことで起こりやすい。対策としては自分の意見とあえて反対の意見を調べるのが有効だ。そうすることで社会的・学問的に論じるべき点が明らかになり、その問題を解決するという目的で自分の文章を書くことができるからである。

そして結論の出し方にも注意が必要だ。「人それぞれで決めればいい」や「~は仕方ない」などの曖昧だったり無意味だったりするものは良くない。自分で考えた具体的な結論を出さなければいけない。

良い論文・レポートを書けるようになるためには、今のようなことに気をつけながら反復練習あるのみだ。

論理的な思考力を養成するうえで**情報量の拡張**は避けられない。しかし、ここで情報量の多さに惑わされ判断を誤ってはいけない。言い換えれば**己の能力によって杞憂**してはいけないということだ。**その場**の状況において正しい判断を行えるようにしたいならば、深く考えず**直観直感**でも構わないからすぐに**判断**してみることが**有効**である。その判断が間違ったとしても、その間違いは経験となり同じ間違いはしないだろう。我々人間の偉大さは間違えることの中にあるのではなく、間違いを訂正したり、正そうと努力することにあるのだ。**この考えを原点とし**忘れずこれからも精進する所存である。

コメント [y155]: どういう意味ですか？

コメント [y156]: どういう意味ですか？

コメント [y157]: どの場ですか？

コメント [y158]: そのようなことは授業で述べていません。有効だという根拠は何ですか？また、「有効」とは、何に対してどういう効果があるということですか？

コメント [y159]: 授業で述べたことを忘れないでもらいたいですね。